連文節変換プログラム
ユーザーズ・ガイド

PC DOS J6.3/V

SC88-3077-00

連文節変換プログラム
ユーザーズ・ガイド

PC
DOS J6.3/V

SC88-3077-00

注意！

本書および本製品をお使いになるまえに、まずX-3ページの『特記事項』に記載されている説明をお読みください。

第１版　１９９４年５月

このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。

目次

はじめに

これから種々のプログラムをお使いになる際に、漢字を入力する必要が生じると思われます。そのときに必要となるのが、連文節変換プログラムなどのかな漢字変換プログラム、つまり、ひらがなを漢字などに変換する役割を受け持つプログラムです。

文節変換は1文節ごとに行う変換ですが、**連文節変換**では複数の文節をまとめて変換することができます。

連文節変換プログラムについて

連文節変換プログラム(MKK)は、IBM DOS バージョンJ4.0/V以上で使用できるかな漢字変換プログラムですが、必ず同梱されているDOS上でお使いください。

連文節変換プログラム・ディスケットには次のものが含まれています。

- 連文節変換プログラム
- オプション設定プログラム
- 個人別辞書ユーティリティー
- 辞書プロファイル
- システム辞書 3つ
- 個人別辞書
- 付属語学習辞書

なお、連文節変換では文節変換用の辞書および辞書カードは使用できません。個人別辞書についてはそのまま使用できます。

PC DOS J6.3/Vで変更/拡張された機能

PC DOS J6.3/Vで変更または拡張された機能はありません。

PC DOS J6.1/Vで変更/拡張された機能

- DOS/Vのセットアップ・プログラムが連文節変換プログラムの導入を行います。J5.0/VではDOS/Vのセットアップ・プログラムは連文節変換プログラムの導入プログラムへと接続されていました。今回の変更によりDOS/Vのセットアップに統合されたため、導入時のカスタマイズは行わないようになりました。
- J5.0/Vは1つのユーティリティー(INSTALL.EXE)が、導入とカスタマイズを行っていましたが、前述の変更により、カスタマイズのみをするように変更され、ファイル名もSETUPMKK.EXEに変更されました。
- デフォルト(省略時の設定)のCONFIG.SYS中のステートメントに"/L"(学習保存あり)オプションが追加されました。
- "/J"オプションが追加されました。このオプションでJISの78年度版、83年度版、90年度版のいずれの区点番号セットを使用するかを設定します。
- 郵便番号辞書(IBMZIPC2.DCT)が大幅に更新されました。項目数は7000以上で、最新の郵便番号に対応しています。
- デフォルトのプロファイルで3つのシステム辞書をサポートします。

キーボードについて

PC DOS* バージョン J6.3/Vでは、5576-001、5576-002/003、5576-A01型およびその互換キーボード、ThinkPad*型、PS/2*の米国英語キーボード（101型キーボード）、5523-S/5535-S型のキーボード、AX**キーボードおよび東芝J3100ノートブック型キーボードが使用できます。

> **注意**
>
> 本書では、5576-A01型キーボードを使って説明しています。これ以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照してください。

関連マニュアル

連文節変換プログラムには多くの機能が含まれています。これらの機能を使いこなすには、DOSについてある程度の基礎知識が必要です。必要に応じて次の資料を参照してください。

DOS（バージョン J6.3/V）に関して:

- 『セットアップ・ガイド』(SC88-3073)
- 『カンタン DOS』(SC88-3074)
- 『ユーザーズ・ガイド』(SC88-3075)
- 『コマンド解説書およびメッセージ集』(SC88-3076)

JIS区点番号、漢字番号の検索について:

- 『漢字コード一覧表』(N:GC18-2040)

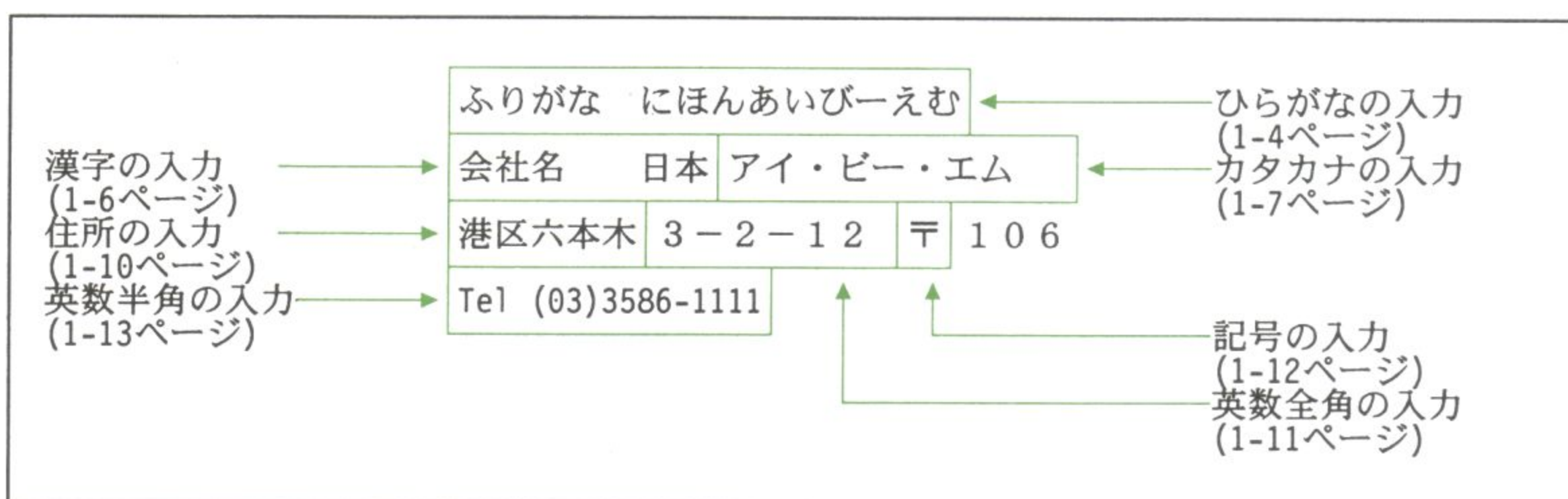
第1章　日本語入力と変換入門

この章では日本語の基本的な入力方法について説明します。連文節変換プログラムは、変換時に自動的に新たな単語を学習したり、また変換できなかった時点で単語登録を行うことで、個別のユーザーのニーズに対応できるようになっています。学習機能や単語登録の方法については本章の後半で説明します。

本章の概要

PC DOS バージョン J6.3/V（以降、DOSと呼ぶ）で文章を入力するには、Eエディターを利用すると便利です。ここでは次のような例をEエディターを使って入力を練習します。

ふりがな　にほんあいびーえむ 会社名　　日本アイ・ビー・エム 港区六本木３－２－１２　〒１０６ Tel (03)3586-1111

上記の文章には、ひらがな、漢字、数字などが混ざっています。次の各部分ごとに説明していきます。

この文章をADDRESS.TXTという新しいファイルに作成します。

Eエディターの始動

まず、コマンド・プロンプトまたはDOSシェルからEエディターを始動します。

1 次のコマンドを入力して、 Enter (改行)を押します。

```
C:¥>e address.txt
```

DOSシェルから始動する場合は「PC DOS E エディター」を選択し、ファイル名ADDRESS.TXTを入力します。

2 次の画面が表示されます。

本章ではEエディターを使用して文字入力だけを行います。Eエディターの基本操作については、『カンタンDOS』を参照してください。

ひらがなの入力

最初はひらがなを入力します。入力方法には「ローマ字入力」と「かな入力」とがあります。この節の例では両方の入力方法で説明しています。実際に入力することで、それぞれの違いを体験できます。

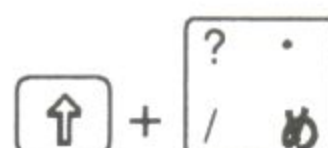
ローマ字入力について

ひらがなよりもアルファベットのキーの方が探しやすいという人のため、ローマ字を使ってひらがなを入力する方法です。たとえば画面の下部の表示が「かな 半角 R」や「かな 全角 R」のときに [w] [a] [t] [a] [s] [h] [i] [h] [a] とタイプすると、画面には「わたしは」と表示されます。画面下部に「漢字」が表示されている場合は、入力されたひらがなは更にかな漢字変換の読みとして扱われます。

「ん」は [n] [n]、「っ（小さい"つ"）」は [x] [t] [u]、「ゃ（小さい"や"）」は [x] [y] [a]、「ょ」は [x] [y] [o] と、先頭に [x] を付けます。詳しい入力方法は付録D,『ローマ字かな対応表』の表を参照してください。

ローマ字入力の場合でも、読点（、）、句点（。）、中黒（・）、長音（ー）などはかな入力と同じキーを押します。たとえば、長音と中黒の場合は、次のキーを押します。

長音（ー）を入力する： [| ¬ ¥ ー]

中黒（・）を入力する： [⇧] + [? ・ / め]

DOSでは初期設定が「ローマ字入力」になっているので、「かな入力」を行う場合には、[Alt] + [ひらがな] (注) ([Alt] を押しながら [ひらがな] を押すこと) キーを押して、ローマ字入力をオフにします（下段のR表示が消えます）。

それではまず、以下の例を入力します。

ふりがな　にほんあいびーえむ

1 [Alt] + [半角/全角] (注) キーを押します。

画面下部に「漢字」と表示されます(**漢字モード**)。

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

```
かな 半角   R 漢字
```

2 「ふりがな」と入力し、Enter（改行）を押します。

ローマ字入力 f u r i g a n a
かな入力 ふ り か ゛ な

```
═══ Top of File ═══
ふりがな█
═══ Bottom of File ═══
```

最後のEnter（改行）で反転表示が消えます。これを**確定**といいます。かな入力では「か」と「゛」は変換されて一文字の「が」になります。

入力ミスを訂正するには

Back Spaceキーを押すと、入力された文字が終わりから1文字ずつ削除されます。

3 スペースキーを押します。

4 「にほんあいびーえむ」と入力し、Enter（改行）を押します。

ローマ字入力 n i h o n n a i b i ー e m u
かな入力 に ほ ん あ い ひ ゛ ー え む

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ█
═══ Bottom of File ═══
```

ローマ字入力の場合でも、長音記号（ー）はかな入力と同じキーを押します。

5 最後にもう一度Enter（改行）を押すと、カーソルが次の行に移動します。

結果は次のようになります。

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ
█
═══ Bottom of File ═══
```

注: これ以降の説明の画面例では、Rが最下段に表示された「ローマ字入力」状態で説明しています。

漢字の入力

つぎは漢字の入力をします。以下の例を入力します。

会社名　　日本アイ・ビー・エム

1 「かいしゃめい」と入力し、[変換]を押します。

ローマ字入力 [k] [a] [i] [s] [h] [a] [m] [e] [i]
かな入力 [か] [い] [し] [ゃ] [め] [い]

```
════ Top of File ════
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名█
════ Bottom of File ════
```

2 [Enter]（改行）を押して文字を確定します。

3 [スペース]キーを2度押します。

```
════ Top of File ════
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　█
════ Bottom of File ════
```

4 「にほん」と入力し、[変換]を押します。

ローマ字入力 [n] [i] [h] [o] [n] [n]
かな入力 [に] [ほ] [ん]

```
════ Top of File ════
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本█
════ Bottom of File ════
```

5 さらに[Enter]（改行）を押して確定します。

カタカナの入力（カタカナ・モードから）

次はカタカナの入力です。カタカナを入力する方法は2種類ありますが、最初は［カタカナ］キーを使う方法です。以下の例を入力します。

会社名　日本アイ・ビー・エム

1 カタカナを入力するには［カタカナ］キーを押します（**カタカナ・モード**）。

画面最下段が以下のように変わります。

```
カナ 半角   R 漢字
```

カタカナには「半角」と「全角」があります。ここでは全角で入力したいので、次のような操作を行います。

2 ［半角/全角］キーを押します。

画面最下段が以下のように変わります。

```
カナ 全角   R 漢字
```

3 「アイ・ビー・エム」と入力し、［Enter］（改行）を押します。

ローマ字入力　［a］［i］［・］［b］［i］［ー］［・］［e］［m］［u］
かな入力　［ア］［イ］［・］［ヒ］［゛］［ー］［・］［エ］［ム］

ローマ字入力の「・」と「ー」は、かな入力と同じキーを押します。

結果は次のようになります。

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム█
═══ Bottom of File ═══
```

カタカナの入力（ひらがなモードから）

カタカナを入力するもう１つの方法は、ひらがなで入力してから変換する方法です。

会社名　　日本アイ・ビー・エム

すでに入力してある場合は、［Back Space］キーを8回押すと、「日本」の次までカーソルが文字を消して移動します。

1 ひらがなを入力するには［ひらがな］キーを押します（**ひらがなモード**）。

画面最下段が以下のように変わります。

```
かな 全角   R 漢字
```

2 「あい・びー・えむ」と入力します。

ローマ字入力	a	i	・	b	i	ー	・	e	m	u
かな入力	あ	い	・	ひ	゛	ー	・	え	む	

3 ［⇧］を押しながら［変換］を押します。

結果は次のようになります。

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム█
═══ Bottom of File ═══
```

このように［⇧］＋［変換］でひらがなを強制的にカタカナに変換できます。この変換方法を使うと、ひらがなモードからカタカナ・モードに切り替える必要がないので、効率的に入力できます。

4 さらに［Enter］（改行）を押して確定します。

5 ［Enter］（改行）を押してカーソルを次の行に移動します。

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
█
═══ Bottom of File ═══
```

注:

1. [⇧] + [変換] で強制的にカタカナに変換できるのは、ひらがなを入力した後、一度も [変換] キーを押していない場合だけです。
2. 国名、地名、山、川などの固有名詞や外来語、現代用語で使用されるカタカナことばは、[変換] キーだけでカタカナに変換できます。
3. 次の文字はカタカナ変換により文字も変わります。

   ぶぁ→ヴァ　ぶぃ→ヴィ　ぶぇ→ヴェ　ぶぉ→ヴォ

住所の入力

住所を入力するには、郵便番号から変換する方法が便利です。郵便番号は全角の数字を入力します。

港区六本木３－２－１２　〒１０６

1 英数を入力するには[**英数**]キーを押します（**英数モード**）。

画面最下段が以下のように変わります。

```
英数 全角   R 漢字
```

2 全角で[1] [0] [6]と入力し[**変換**]を押します。

```
===== Top of File =====
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
港区六本木█
===== Bottom of File =====
```

これが**郵便番号変換**です。最新の郵便番号に対応していますから、住所入力にはとても便利な機能です。

3 [Enter]（改行）を押して確定します。

郵便番号がわからない場合は、通常の方法で、ひらがなを変換して入力します。

英数全角の入力

つぎに全角の数字を入力します。同じモードで全角のアルファベットや記号も入力できます。以下の例を入力します。

港区六本木３－２－１２　〒１０６

1 [3] [－] [2] [－] [1] [2] と入力し、[Enter]（改行）を押して確定します。

2 [スペース] キーを押します。

次のようになります。

```
===== Top of File =====
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
港区六本木３－２－１２ █
===== Bottom of File =====
```

記号の入力

つぎは「〒」のような特殊記号の入力です。特殊記号は漢字番号で入力できますが（2-14ページの『変換で出ない漢字を入力する－その2（番号入力）』を参照）、〒のようによく使う記号は「特殊記号グループ」のグループ名を使って入力すると簡単です。以下の例を入力します。

港区六本木３－２－１２　〒１０６

1 ［ひらがな］キーを押します。

画面最下段が以下のように変わります。

```
かな 全角　R 漢字
```

2 「いっぽん」と入力し、［Ctrl］を押しながら、［無変換］キーを押してください。（「いっぽん」は〒が属するグループ名です。）

画面最下段が以下のように変わります。

```
かな 半角　R 1 § 2 ※ 3 〒 4 ㈱ 5 № 6 ℡ 7 ‥ 8 …　単漢候補 0/8
```

3 ［3］キーを押し、［Enter］（改行）を押して確定します。

```
════ Top of File ════
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
港区六本木３－２－１２　〒█
════ Bottom of File ════
```

このようにして特殊記号を入力できます。それぞれの特殊記号グループの呼び方は2-16ページの表2-1を参照してください。

4 ［1］［0］［6］と入力し、［Enter］（改行）を押して確定します。

5 さらに［Enter］（改行）を押してカーソルを次の行に移動します。

```
════ Top of File ════
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
港区六本木３－２－１２　〒１０６
█
════ Bottom of File ════
```

英数半角の入力

それでは最終行の英数半角の入力をします。以下の例を入力します。

```
Tel (03)3586-1111
```

1 英数を入力するには[英数]キーを押します。

画面最下段が以下のように「かな」から「英数」に変わります。

```
英数 全角   R 漢字
```

2 さらに[半角/全角]キーを押します。

画面最下段が以下のように「全角」から「半角」変わります。

```
英数 半角   R 漢字
```

3 Tel (03)3586-1111と入力します。

```
═══ Top of File ═══
ふりがな　にほんあいびーえむ
会社名　　日本アイ・ビー・エム
港区六本木３－２－１２　〒１０６
Tel (03)3586-1111
═══ Bottom of File ═══
```

これですべての入力は終了です。

4 [F4]を押します。

Eエディターが終了し、ファイルが保存されます。

```
C:¥>
```

DOSシェルから始動した場合には、DOSシェルの初期画面に戻ります。

基本的な入力の操作は完了です。次は変換できなかった文字を辞書に加え、徐々に変換精度や変換効率を上げる方法を練習します。

学習機能と学習の保存

学習機能とは変換で出現する候補の順番を入れ替え、使用頻度の高いものを候補の先頭にする機能です。これによってよく使うことばは最初の候補に現れるため、効率のよい変換ができます。

DOSの連文節変換プログラムでは、初期設定で学習機能を使用するようになっています。以下の単語を例に学習機能を使い、その学習を保存します。

互換性

Eエディターを使って入力することも、またコマンド行から試すこともできます。

1 [Alt] + [半角/全角] (注) キーを押します。

画面下部に「漢字」と表示されます。

```
かな 半角   R 漢字
```

2 「ごかんせい」と入力し、[変換] を押します。

ローマ字入力	g	o	k	a	n	n	s	e	i
かな入力	こ	゛	か	ん	せ	い			

```
ご完成
```

文の区切りが間違っている（「ごかん」と「せい」に区切られるはずが、「ご」と「かんせい」に区切られてしまった）ので、これを正しく学習させます。

3 [⇧] + [←] で、「ご」へ反転を移動します。

4 [無変換] を押します。

すべてがひらがなに戻ります。ここで [無変換] を押すことは重要です。[Esc] でも見かけは変わりませんが、後で説明する「学習」を有効にするには [無変換] を使います。

```
ごかんせい
```

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C, 『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

5 [→] を2回押して「ごかん」を反転させます。

6 さらに [変換] を押します。

互換性█

正しく変換されました。

7 [Enter]（改行）を押して確定します。

これで学習しました。学習したことを保存するには漢字モードから抜ける必要があります。

8 [Alt] +[半角/全角] (注) キーを押します。

画面下部から「漢字」の表示が消えます。

英数 半角 R

これで学習が保存されます。学習を保存したい場合は、このように「漢字モードを抜ける」という作業を「学習の保存」と考えて行うと、漢字モードの終了を忘れて、電源を切ってしまった場合にも対応できます。

参考

学習や単語登録はすべて$USRDICT.DCTと$FZKMKJL.DCTという２つのファイルに登録されます。学習機能や辞書登録を頻繁にお使いの場合には、これらの辞書を定期的にバックアップを取ることをおすすめします。

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

単語登録の方法

辞書を更新するもうひとつの方法は単語登録です。これは、学習では対処できないことばや固有名詞などを登録するのに使用できます。登録できるのは全角文字だけです。以下の例で単語登録を行います。

```
ＤＯＳ／Ｖ
```

1 Ctrl + Alt + 半角/全角 (注) キーを押します。

画面下部が次のように変わります。

```
かな 半角  R かな制御   設定  単語登録
```

「設定」が反転しています。

2 → でカーソルを「単語登録」に移動し、Enter（改行）を押します。

```
単語登録  語句 [                      >
          読み [                      ]
かな 半角  R 漢字
```

3 先ほど練習した方法で英数全角で「ＤＯＳ／Ｖ」を入力し、↓ で次の行に「どすぶい」とひらがなモードにして入力してください。

```
単語登録  語句 [ＤＯＳ／Ｖ              >
          読み [どすぶい                ]
かな 半角  R 漢字
```

4 Enter（改行）を押すと単語が登録されます。

5 登録を確認するため、ひらがなモードから「どすぶい」と入力して 変換 を押してください。

```
ＤＯＳ／Ｖ█
```

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C，『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

英数全角の文字に変換されます。このように登録しておくと、英数モードに切り換えせずに変換できるので効率的です。

第2章　目的別の日本語入力方法

この章では連文節変換プログラムのさまざまな機能を、目的別に分類して解説します。自分の入力に最適の方法を選んでください。なお、この章で使用するキーが2-19ページの表にまとめてあります。

短く確実に文章を入力する（文節変換）

文節で区切りながら［変換］を押して、確実に変換しながら入力する方法です。第１章で紹介したのもこの方法です。

例

ここでは次の例文を文節変換で入力します。

子供の	瞳は	いつもきらきら	輝いている

第１章で練習したように、入力を始める前に漢字モードでかな入力状態かもしくはローマ字入力状態にしてください。

1　「こどもの」と入力し［変換］を押します。

子供の

2　「ひとみは」と入力し［変換］を２回押します。

子供の瞳は

一度目で変換できなかったのは「ひとみ」というひらがなの名前が辞書に登録されているためです。

3　「いつもきらきら」と入力し［無変換］を押します。

子供の瞳はいつもきらきら

変換しないひらがなは、［無変換］を押すと、そのまま入力されます。

無変換キーについて

助詞・助動詞や送りがななど、文字列のなかにはそのままひらがなで表示したいものがあります。この場合に使うのが［無変換］キーです。［無変換］キーを押すと、そのままひらがなで表示されます。

4 「かがやいている」と入力し［変換］を押します。

子供の瞳はいつもきらきら輝いている

5 最後に［Enter］（改行）を押して確定します。

この方法は、確実に確認しながら入力できるという利点があります。

息継ぎの感覚で文章を入力する（連文節変換）

連文節変換プログラムの本来の機能です。息継ぎをするようなタイミングで、たとえば次のように変換キーを押します。

こんしゅうまつに [変換]
かぞくそろってえいがにいきます。 [変換]

この方法は一度にたくさん入力できる反面、必ずしも自分が考えている通りに文章が変換されない場合もあります。その場合は**文節の切り直し**という作業が必要です（2-8ページ参照）。

次の変換候補を表示する	[変換]
前の変換候補を表示する	[⇧] + [変換]

例

次の例を使って、連文節変換を練習します。

兄夫婦に赤ちゃんが生まれました

1 「あにふうふにあかちゃんがうまれました」と入力し、[変換] を押してください。輝度反転部分の読みが漢字に変換されます。

兄夫婦に赤ちゃんが生まれました

最後の文節「生まれました」が輝度反転で表示されています。[←]、[→] キーを押して輝度反転部分の動きを確かめてみてください。文節単位で輝度が反転することが分かります。輝度反転している部分が、かな漢字変換の対象となります。変換後も下線（カラー表示の場合は青色文字）が残っている間は再変換が可能です。

2 ［確定］

[Enter]（改行）を押してください。変換が確定します。

兄夫婦に赤ちゃんが生まれました

同音異義語が表示された場合

文節の区切りは正しいが誤変換された例を試します。

次の文節にカーソルを移動する	⇧ + →
前の文節にカーソルを移動する	⇧ + ←
先頭の文節にカーソルを移動する	Ctrl + ←
最後の文節にカーソルを移動する	Ctrl + →

例

次の例を入力します。

見当違い

1 「けんとうちがい」と入力して、 変換 キーを押してください。

検討違い

「見当」と変換したかったのに「検討」になっています。

2 [文節移動]

⇧ + ← キーを押して、1文節前を輝度反転してください。

検討違い

3 [再変換]

変換 キーを数回押し、希望の漢字を表示してください。

見当違い

変換 キーを押し過ぎてしまった場合は、 ⇧ + 変換 キーを押すと、1つ前の候補に戻ります。 変換 キーを何度か押すと、全候補が表示されます（2-10ページ参照）。

4 最後に Enter （改行）を押して確定します。

いったん変換した文節を読みに戻す

漢字にしたくない部分まで漢字に変換されてしまった場合、または、文節の区切り方が間違っていた場合には、いったん変換した文節をもとの読みに戻します。ただし、確定してしまった文節は戻すことはできません。

全体を読みに戻す	変換直後にカーソルを動かさずに [無変換]
特定の文節以降を読みに戻す	文節を輝度反転してから [無変換]
特定の文節だけを読みに戻す	文節を輝度反転してから [Alt] +[無変換]

全体を読みに戻す

変換直後にカーソルを移動せずに[無変換]キーを押すと、全体が読みに戻ります。

例

1 「ぶんせつをよみにもどす」と入力し、[変換]キーを押してください。

文節を読みに戻す

2 **[全体を読みに戻す]**

そのまま[無変換]キーを押してください。

ぶんせつをよみにもどす

変換した部分がすべて元のかな文字列に戻ります。

特定の文節から最後まで読みに戻す

ある文節を輝度反転し 無変換 キーを押すと、その文節から右の部分がすべて読みに戻ります。

例

1 「ぶんせつをよみにもどす」と入力し、変換 キーを押してください。

```
文節を読みに戻す
```

2 **[文節間移動]**

⇧ + ← キーを押して1文節前を輝度反転してください。

```
文節を読みに戻す
```

3 **[特定の文節以降を読みに戻す]**

無変換 キーを押してください。

```
文節をよみにもどす
```

指定した文節から右の部分がすべて読みに戻ります。

注: 読みを入れて 変換 キーを押した直後に 無変換 キーを押した場合は、文節全体が読みに戻ります（2-5ページの『全体を読みに戻す』を参照）。

特定の文節だけを読みに戻す

ある文節を輝度反転し 無変換 キーを押すと、その文節以降がすべて読みに戻ります。これに対して、**文節読み**キー（Alt ＋無変換）を押すと、その文節だけが読みに戻ります。

例

1 「ぶんせつをよみにもどす」と入力し、変換 キーを押してください。

文節を読みに戻す

2 **［文節間移動］**

⇧ ＋ ← キーを押して1文節前を輝度反転してください。

文節を読みに戻す

3 **［文節読み］**

文節読みキー(Alt ＋ 無変換)を押してください。

文節をよみに戻す

指定した文節だけが読みに戻ります。また、この状態で文節読みキー(Alt ＋ 無変換 ）を押すと、次の文節「もどす」も読みに戻ります。このように文節読みキーを押し続けると、次々に後の文節が読みに戻ります。

文節を切り直す

文節や複合語の区切りが誤って変換されたために、思わぬ変換が行われてしまうことがあります。このような場合は、まず対象となる文節以降を読みに戻してから文節を切り直し、再変換する必要があります。この文節切り直しでは、第１章で練習した学習機能が働きますので、ある程度の長期にわたって使うと辞書が自分用に拡張され、変換精度が向上するという利点があります。

例

次の例文で試します。

区切り違いは気になります。

1 「くぎりちがいはきになります」と入力し、 変換 を押してください。

区切り違い破棄になります

「は気になります」と変換したかったのに、「破棄になります」になっています。

2 **［特定文節を読みに戻す］**

Alt ＋ 無変換 キーを1回押してください。

区切り違いはきになります

3 **［無変換］**

「は」はそのままでよいので、 無変換 キーを1回押してください。

区切り違いはきになります

4 ［文節切り直し］

[→] キーを5回押して「きになります」を輝度反転し、[変換] キーで「気になります」に変換してください。[変換] キーを押しても希望の候補が表示されない場合には、全候補を表示し(2-10ページ）そこから選択します。

区切り違いは気になります

自動文節切り直し

連文節変換中に文節の切り直しを行い、前の文節を変換すると、自動的に後の文節も変換されます。初期設定ではこの**自動文節切り直し**が有効になっています。以下の文章を例に説明します。

ここではきものをぬいでください

［変換］

ここで履物を脱いで下さい（文節の切り誤り）

［無変換］

ここではきものをぬいでください

［→］を３回（文節の切り直し）

ここではきものをぬいでください

［変換］

ここでは着物を脱いで下さい

「ここでは」を変換したことにより、後の部分も自動的に変換されました。

画面から候補を選択して入力する（全候補）

変換 キーを押しながら希望の漢字を探すかわりに、あるだけの同音異義語を一度に表示し（**全候補**の表示）、そこから選ぶこともできます。読みを入力して一度 変換 キーを押した後、 Alt ＋ 変換 キーを押してください。画面の最下行に**全候補**が表示されます。

```
かな 半角   R 1 貴社 2 記者 3 帰社 4 汽車 5 喜捨            文節候補 0/5
```

注: 「文節候補 0/5」とあるのは文節変換用の候補が全部で5つあり、すべてが表示されている（残りの候補は0である）ことを示します。

「文節変換」用の候補と「単漢変換」用の候補の両方が存在する場合には、「文節変換」用から先に表示され、続いて「単漢変換」用候補が表示されます。

全候補の表示では次のキーを使います。

全候補を表示する	変換 の後、 Alt ＋ 変換
全候補を消去する	Esc
前に表示された候補群を再表示する	Page Up
次の候補群を表示する	Page Down

例

1 「ま」を入力して、 変換 キーを押してください。

「間」になります。

2 **［全候補］**

Alt ＋ 変換 キーを押してください。

次のように、まず文節候補が表示されます。

```
かな 半角  R 1 間 2 真 3 魔 4 目                    文節候補 0/4
```

注: 「文節候補 0/4」の「0」は、これ以上文節候補がないことを意味しています。

3 **［全候補の次候補］**

Page Down キーを押してください。

次のように、単漢候補が表示されます。

```
かな 半角　R 1 待 2 増 3 負 4 交 5 巻 6 麻 7 摩 8 舞 9 先　単漢候補 20/29
```

注: 「単漢候補 20/29」の「29」は、単漢候補が全部で29個あることを意味しています。また、「20」は単漢候補があと20個あることを意味しています。

4 ［全候補の前候補］

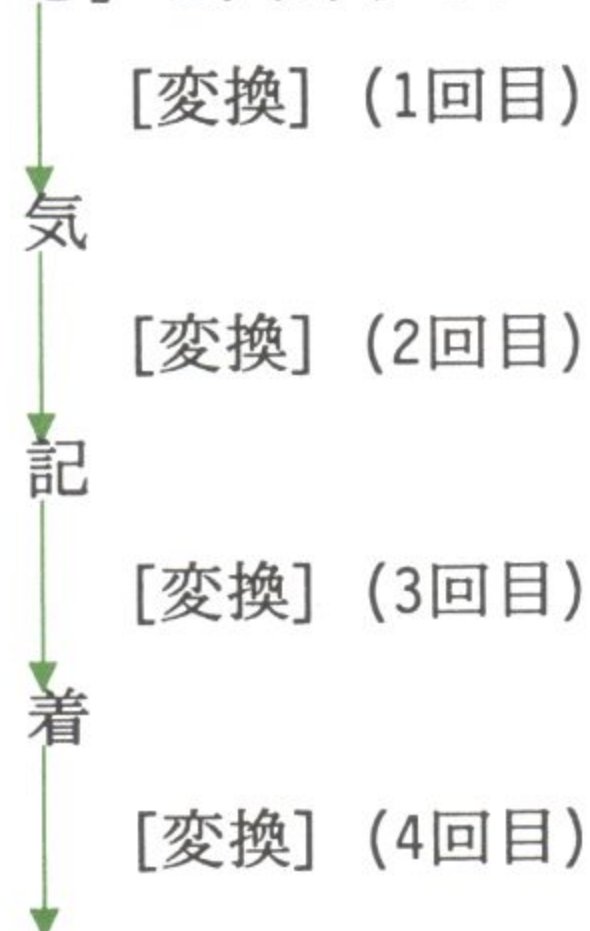
[Page Up] キーを押してください。

次のように、前に表示された文節候補が再表示されます。

```
かな 半角　R 1 間 2 真 3 魔 4 目　　　　　　　　文節候補 0/4
```

自動全候補機能

[変換] キーを特定の回数だけ押すと、自動的に全候補が表示されます。初期設定では4回になっています。

下記のように [変換] キーを4回押すと、自動的に全候補が出現します。

```
かな 半角　R 1 気 2 記 3 着 4 木 5 期 6 機 7 紀 8 規 9 既　文節候補 14/23
```

[Page Up] キーで前候補が、[Page Down] キーで次候補が表示できます。
[Esc] キーで解除できます。

変換で出ない漢字を入力する－その１（単漢変換）

文節を切り直して、いざ変換しようとしても希望の漢字が表示されず全候補を見てもない場合があります。これは、変換しようとする語句が辞書にないからです。しかし辞書の中に語句としては存在しなくても、たいていの場合は1文字の漢字としては存在しています。

読みはほとんどが音読みで登録されています。

全候補の表示では次のキーを使用します。

単漢候補を表示する	Ctrl ＋ 無変換
単漢候補を消去する	Esc
前に表示された候補群を再表示する	Page Up
次の候補群を表示する	Page Down

例１

たとえば「澤」という字の読みは、「さわ（訓読み）」ではなく「たく（音読み）」で登録されています。そのため「澤」という字を出すには次のような操作が必要です。

1 ［読みの入力］

「たく」と入力してください。

2 ［単漢変換］

Ctrl ＋ 無変換 キーを押してください。
読みに対応する漢字の全候補が表示されます。

3 ［候補の選択］

候補の中から「澤」を探し、番号で選択します。

例２

次は旧字体の「圀」を入力する例です。

1 「くにのきゅうじたいはくにです」と入力し、 変換 キーを押してください。

国の旧字体は国です

と変換されます。

2 ［文節を読みに戻す］

[Alt]＋[無変換]キーを押して、最後の文節「国です」の部分を読みに戻してください。

3 ［読みの決定］

[→]キーを1回押して、「くに」を輝度反転させてください。

4 ［単漢変換］

[Ctrl]＋[無変換]キーを押して、単漢候補を表示してください。

5 ［候補の選択］

候補の中から「圀」を選び、その番号を入力してください。

> 国の旧字体は圀です

となります。

変換で出ない漢字を入力する－その２（番号入力）

単漢変換でも変換できない場合には、 JIS区点またはIBM漢字番号を使って番号入力をしてください。番号は、『漢字コード一覧表』を参照してください。

注: JIS区点とIBM漢字番号のどちらで入力するかは、あらかじめ設定されています（デフォルト値はJIS区点）。設定値を変更する方法については、第3章,『かな漢字変換オプションの設定』を参照してください。

番号入力では、次のキーを使用します。

番号入力モードに入る	[Alt] +[英数] (注)
番号入力モードから抜ける	[Esc]

例

「臍をかむ」と入力したいのですが「臍（ほぞ）」という漢字は単漢変換でも変換できません。それでこの場合は、次のようにします。

1 ［漢字コードを調べる］

入力する文字（ここでは「臍」）の番号を『漢字コード一覧表』で調べてください。

「臍」の番号は、JIS区点の場合は「7133」、漢字番号の場合は「8652」です。

2 ［番号入力モードに入る］

漢字モードにおいて（通常モードからでも番号入力モードに入ることができます）[Alt] +[英数] (注) キーを押してください。

3 ［番号入力］

表示されるプロンプトに従って番号を入力してください。

4 [Enter]（改行）を押してください。

「臍」が表示されます。

5 ［番号入力モードを抜ける］

[Esc] キーを押してください。

6 続いて「をかむ」と入力して、文章を完成させてください。

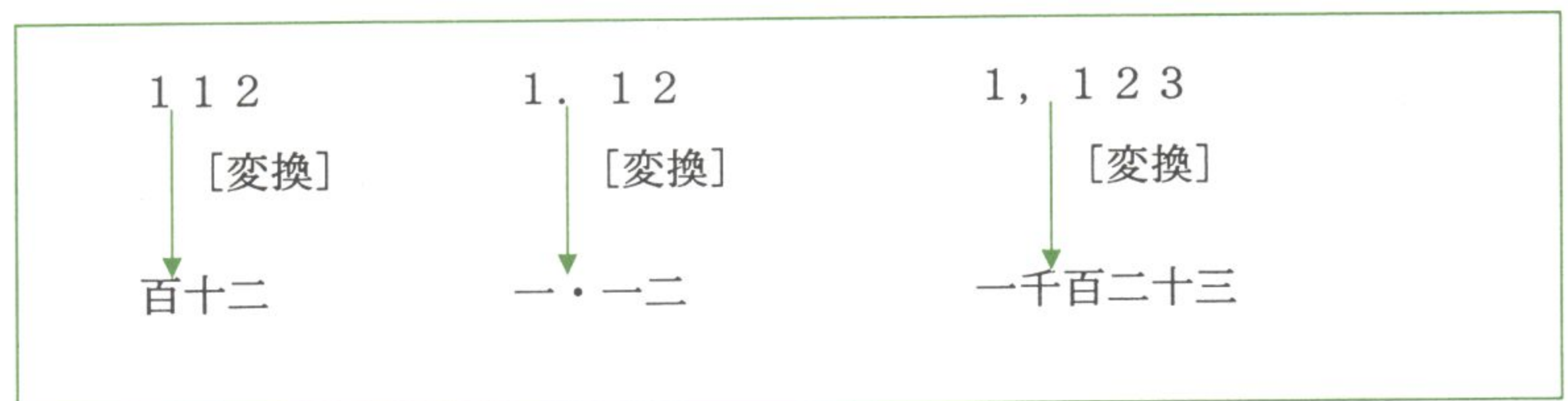
(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

郵便番号で住所入力をする（郵便番号辞書）

郵便番号辞書が標準で組み込まれているので、3桁または5桁の全角の数字を入力して変換すると、その数字と対応する郵便番号がある場合に、その地名を表示します。

たとえば「１０６」を変換すると「港区六本木」になります。

漢数字を簡単に入力する（漢数字変換）

全角の数字も変換の対象なので、算用数字から漢数字への変換ができます。小数点やカンマを含めることができます。

注： 郵便番号辞書（2-15ページ参照）が標準で組み込まれているので、3桁または5桁の全角の数字を入れると、その数字と対応する郵便番号がある場合、その地名を先に表示します。

記号を入力する（特殊記号入力）

次の表の通り、**読み**が登録されている記号の場合は漢字コード表で番号を調べなくても、その登録グループ名を読みとして、Ctrl ＋無変換 を使って単漢変換で入力できます。

表　2-1. 特殊記号の読み

読み	入力できる記号
あくせんと	´ ¨
いっぱん（きごう）	§ ※ 〒 … ‥ ㈱ № ℡
えんざん（きごう）	± ≠ ∞ ≦ ≧ × ÷ ∴ ― ‐ ∵
かっこ（きごう）	〔 〕 〈 〉 《 》 【 】 ‘ “ ’ ”
ぎりしゃ（もじ）	α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω Α Β Γ Δ Ε Ζ Η Θ Ι Κ Λ Μ Ν Ξ Ο Π Ρ Σ Τ Υ Φ Χ Ψ Ω
くろ（きごう）	● ▲ ★ ◆ ■ ▼
こんざい（きごう）	┣ ┳ ┫ ┻ ╋ ┠ ┯ ┨ ┷ ┿
しろ（きごう）	○ △ ◎ ☆ ◇ □ ▽
すうがく（きごう）	∠ ⊥ ⌒ ∂ ∇ ≡ ≒ ≪ ≫ √ ∽ ∝ ∫ ∬
たんい（きごう）	° ′ ″ ℃ ¢ Å ‰
とくしゅ（きごう）	¦ 〃 仝 ♂ ♀ ‖ ＝ ♯ ♭ ♪ † ‡ ¶ ◯
ふとせん（きごう）	━ ┃ ┏ ┓ ┛ ┗ ┣ ┳ ┫ ┻ ╋
ふるいかたかな	ヰ ヱ ヽ ヾ ヵ ヶ ヮ
ふるいひらがな	ゎ ゐ ゑ ゝ ゞ
ほそせん（きごう）	─ │ ┌ ┐ ┘ └ ├ ┬ ┤ ┤ ┼
やじるし	→ ← ↑ ↓ ⇒ ⇔
ろおま（すうじ）	i ii iii iv v vi vii viii ix x I II III IV V VI VII VIII IX X
ろしあ（もじ）	а б в г д е ё ж з и й к л м н о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы А Б В Г Д Е Ё Ж З И Й К Л М Н О П Р С Т У Ф Х Ц Ч Ш Щ Ъ Ы
ろんり（きごう）	∈ ∋ ⊆ ⊇ ⊂ ⊃ ∪ ∩ ∧ ∨ ∀ ∃

変換できないことばを登録する（単語登録）

システム辞書($IBMBASE.DCT)にない語句、頻繁に使用する用語などは個人別辞書($USRDICT.DCT)に登録しておくと便利です。登録する語句にもよりますが、約4,500語を登録できます。変換した単語をその場で登録するには、「かな漢字制御メニュー」で「単語登録」を選択します。

注: **個人別辞書ユーティリティー**を使っても単語登録ができます（4-8ページの『個人別辞書を管理する』を参照）。連続して多数の語句を登録する場合は、個人別辞書ユーティリティーを使用する方が便利です。

DOS/Vをお使いの場合

1 Ctrl ＋ Alt ＋ 半角/全角 (注) キーで**かな漢字制御メニュー**を表示し（漢字モードからでも通常モードからでも呼び出せます）、「単語登録」を選択してください。次のように表示されます。

```
単語登録  語句 [                              >
          読み [                    ]

かな 半角    R 漢字
```

2 「語句」欄に登録する語句（全角文字のみ）を入力してください。ひらがな、カタカナ、漢字、数字など全角文字であれば自由に登録できます。

語句を入力したら ↓ キーを押して「読み」欄に移り、登録する読みを入力してください。読みは全角ひらがなでなければなりません。読みを入力し終えたら Enter （改行）を押してください。

登録できる語句・・・20文字以内の全角文字
登録できる読み・・・10字以内のひらがな

登録した語句を使用するには、登録した読みを入力して 変換 キーを押します。

Windowsをお使いの場合

1 Ctrl ＋ Alt ＋ 半角/全角 (注) キーで「IASインターフェースかな漢字制御メニュー」を表示し、「コマンド(C)」の「単語登録(W)」を選んでください。

2 『DOS/Vをお使いの場合』と同じ方法で登録してください。

詳しくはWindows**のマニュアルを参照してください。

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

注: WindowsのDOSプロンプト上で単語登録を行う場合は、『DOS/Vをお使いの場合』と同じ方法でできます。

繰り返し同じ文章を入力する（リトリーブ機能）

前に入力した読みを、 ⇧ + 変換 キーを押すことによって呼び出すことができる機能です。同じ文字を何度も入力するときや、似かよった文章を入力するときに便利です。

1 「りとりーぶはべんりです。」と入力して、 変換 を押してください。

リトリーブは便利です。

2 **[確定]**

Enter （改行）を押してください。変換が確定します。

リトリーブは便利です。

3 **[リトリーブ]**

⇧ + 変換 キーを押してください。前回の読みが再び出現します。

リトリーブは便利です。りとりーぶはべんりです。

取り戻したり回復することをリトリーブと言います。

この章のまとめ

機能	操作	使用するキー
変換/無変換（→2-3ページ）	次の変換候補を表示する	[変換]
	前の変換候補を表示する	[⇧]＋[変換]
	変換しない	[無変換]
変換対象文節の選択（カーソルの移動）（→2-4ページ）	次の文節にカーソルを移動する	[⇧]＋[→]
	前の文節にカーソルを移動する	[⇧]＋[←]
	先頭の文節にカーソルを移動する	[Ctrl]＋[←]
	最後の文節にカーソルを移動する	[Ctrl]＋[→]
確定（→1-5ページ）	確定する	[Enter]
読みに戻す（→2-5ページ）	全体を読みに戻す	変換直後に[無変換]
	特定の文節以降を読みに戻す	文節を輝度反転して[無変換]
	特定の文節だけを読みに戻す	文節を輝度反転して [Alt]＋[無変換]
文節の切り直し（→2-8ページ）	文節を切り直す	読みに戻した後[→]，[←]
全候補の表示（→2-10ページ）	全候補を表示する	[変換]の後、[Alt]＋[変換]
	全候補を消去する	[Esc]
	前/次の候補群を表示する	[Page Up]，[Page Down]
単漢候補の表示（→2-12ページ）	単漢候補を表示する	[Ctrl]＋[無変換]
	単漢候補を消去する	[Esc]
	前/次の候補群を表示する	[Page Up]，[Page Down]
番号入力（→2-14ページ）	番号入力モードに入る	[Alt]＋[英数]
	番号入力モードから抜ける	[Esc]
郵便番号辞書（→2-15ページ）	郵便番号による住所入力	郵便番号を入力して[変換]
漢数字変換（→2-15ページ）	算用数字から漢数字への変換	全角数字を入力して[変換]
特殊記号入力（→2-16ページ）	特殊記号を入力する	登録グループ名を入力してから、[Ctrl]＋[無変換]
単語登録（→2-17ページ）	かな漢字制御メニューの表示	[Ctrl]＋[Alt]＋[半角/全角]
リトリーブ（→2-18ページ）	前の読みの表示	確定後、[⇧]＋[変換]

注： 本書では、5576-A01型キーボードを使って説明しています。これ以外のキーボードをお使いの方は、付録C，『キーボードとキーの割り当て』を参照してください。

第3章　かな漢字変換オプションの設定

初心者の方へ

初心者の方で、オプションの設定について意味がよく判らない場合には、この章をスキップして次章へ進んでください。通常は、あらかじめ標準のオプションが自動設定されているので、そのままご使用ください。

オプションで設定できるもの

連文節変換プログラムでは、次のオプションの設定を変更できます。

- 変換位置（スポット変換・定位置変換）
- 定位置変換時の確定方法（文字・改行キー）
- 変換方法（自動・先読・一括・複合・文節）
- 番号入力（JIS・IBM）
- 学習保存（あり・なし）
- RAM辞書の利用
- 辞書プロファイルの指定
- 自動全候補回数指定
- 自動文節切り直し（する・しない）
- 個人別辞書のドライブ、パス指定

各オプションは、**SETUPMKK**というカスタマイズ・プログラム、または「かな漢字制御メニュー」を使って設定、変更できます。設定方法は、3-5ページの『オプションの変更』で説明します。

各オプションの説明

変換位置

スポット変換　カーソルのある位置に文字が入力されます。ただし、グラフィック・モードでは使用できません。

注:　グラフィック・モードでのスポット変換を可能にするには、次の手順で行います。

1. SETUPVコマンドを起動する。
2. 「入力」を選択する。
3. 「スポット変換（グラフィック時）」を「オン」にする。
4. [F10]（設定終了）キーを押して変更を保存する。
5. システムを再始動する。

定位置変換　画面最下行に文字が入力され、定位置確定で選択した確定方法によって確定すると、カーソル位置に戻ります。

定位置変換時の確定方法（定位置確定）

文字　ある文字列を変換し、続いて次の文字を入力すると、カーソル位置に文字が戻って確定します。 [Enter] （改行）を押しても同様に確定されます。

改行キー　[Enter] （改行）を押すことによってのみ確定します。

変換方法

自動変換　ひらがな以外の文字（英数字、句読点など）が入力された時点で自動的に変換が行われるモードです。

先読変換　連文節変換の一般的なモードです。文字列は、入力されるごとに連文節変換プログラムに渡され、 [変換] キーを押した時点で変換が行われます。

一括変換　連文節変換の一般的なモードです。 [変換] キーを押した時点で、それまでに入力された文字が一挙に連文節変換プログラムに渡され、変換が行われます。

複合語変換　入力される文章を自立語の組合せである*複合語*とみなして変換するモードです。

例:　まちだし

複合語変換を選択した場合:　町田市
通常の連文節変換では:　町だし

文節変換　文節変換と同じ処理モードです。文節ごとに [変換] キーを押すことが必要です。

注:　アプリケーション・プログラム（適用業務プログラム）によっては、変換方法が選択できず、連文節一括変換に固定されているものがあります。（4-1ページの『アプリケーション・プログラムとの関係』）

表 3-1. 変換方法を選ぶためのポイント

場合	変換方法
入力する文章にひらがな以外の文字が多い場合には	自動変換
タイピングの速さが普通で、比較的長い文字列を入力した後に [変換] キーを押す場合には	先読変換
タイピングをキーボードを見ずに素早く行えて、 [変換] キーを比較的頻繁に押す場合には	一括変換
名簿や住所録の作成など複合語を入力する場合には（文章の途中に「て・に・を・は」を入れる必要がないとき）	複合語変換
文節変換と同じように操作したい場合には	文節変換

注:　自動変換と先読変換は、キー・インのたびにディスクにアクセスしますので、電力を多く消費します。ノートブックPCなどでバッテリーを長持ちさせたい方は、ぜひ一括変換を使用してください。

番号入力

JIS区点 区点番号の入力をする場合に次のプロンプトが表示されます。

JIS区点 ==>

IBM漢字番号 漢字番号の入力をする場合に次のプロンプトが表示されます。

漢字番号 ==>

注: IBM 漢字番号は、日本語3270PCまたは日本語5250PCを導入した場合にPC側とホスト側の両方で使用できます。

学習保存

ある読みに対してかな漢字変換を実行すると、そのとき選択した候補が次の変換時には最初の候補となります（これを「学習」といいます）。「学習保存」を「あり」に指定すると、学習内容は、漢字モードから抜ける際に辞書に登録され、いったん電源を切ってもその内容は失われません。

注: 漢字モードから抜けないで電源を切ると、「学習保存」を「あり」に指定していても、学習内容は辞書に登録されません。学習内容を登録したい場合には、必ず Alt ＋ 半角/全角 (注) キーを押して漢字モードから抜けた後で電源を切ってください。

RAM辞書

RAM辞書を利用すると変換速度が早くなります。RAM辞書を利用する場合には付録B, 『RAM辞書を利用する』を参照してください。

辞書プロファイル名の指定

システム辞書を指定しておくプロファイル名を指定できます。詳細は4-29ページの『辞書について』を参照してください。

自動全候補回数指定

変換 キーを数回押すことにより、自動的に全候補を表示させたい場合、その回数を指定することができます。

0を指定すると全候補キー（ Alt ＋ 変換 ）を押したときのみ全候補を表示します。詳細は2-11ページを参照してください。

自動文節切り直し（する・しない）

文節の切り直しを行い、前の文節を変換すると自動的に後の文節も変換する「自動文節切り直し」をする・しないを指定します。詳細は2-9ページを参照してください。

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C, 『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

個人別辞書のドライブ、パス指定

個人別辞書のドライブ、パスを指定します。詳細は4-31ページの『個人別辞書（$USRDICT.DCT）』を参照してください。

オプションの変更

連文節変換プログラムには前述したオプションが用意されていますので必要に応じてオプションを変更してください。

オプションの設定方法には次の2種類があります。

- 電源を切ったあと、次に立ち上げたときから有効になる。

  → CONFIG.SYSのINSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE以下のパラメーターを書き替える。書き替えにはカスタマイズ用のユーティリティー「SETUPMKK」をお使いください。

- 電源を切るまでの間だけ有効。次に立ち上げたときは無効になる。

  → [Ctrl] + [Alt] + [半角/全角] (注) キーを押して、表示される制御パネルで変更する。

次回始動時に有効になる設定

本バージョンでは、カスタマイズ・プログラムを使って希望する項目を選択することにより、**プログラムが自動的にCONFIG.SYSファイルを更新します。**自分でエディターなどでCONFIG.SYSを書き替える場合は、4-2ページの『オプションの詳細』を参照してください。

設定手順

1 電源をONにしてください。しばらくすると**DOSシェル**または**コマンド・プロンプト**が表示されます。

2 DOSシェルの画面が表示されている場合、[F3] キーを押してください。

3 画面の左上にC:¥>が表示されていることを確認してください。

```
C:¥>
```

4 C:¥>の後に下記のようにタイプし、[Enter] (改行) を押してください。

```
C:¥>setupmkk
```

5 「CONFIG.SYSのドライブ指定」画面が表示されます。

(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C, 『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

CONFIG.SYSのドライブ指定

処理の中でCONFIG.SYS を更新します。
更新する CONFIG.SYS のあるドライブを指定してください。

[C] ¥

PF3：導入中止
Enter(改行)：次へ

CONFIG.SYSがあるドライブを指定してください。

6 『連文節変換のオプション設定』画面が表示されます。

連文節変換のオプション設定

各項目から一項目を選ぶか、もしくはキー入力してください。
(パス名の最長入力文字数は半角文字で64文字以内です。)

変換位置　　　:＞ スポット　　　定位置
定位置確定　　:＞ 文字　　　　　改行キー
変換モード　　:　 自動　＞ 先読　　一括　　複合　　文節
漢字番号入力　:＞ ＪＩＳ区点　　ＩＢＭ漢字番号
学習保存　　　:＞ あり　　　　　なし
ＲＡＭ辞書　　:　 使用する　　＞ 使用しない
自動全候補　　:　 ０　２　３　＞４　５　６　７
　指定回数
自動文節　　　:＞ あり　　　　　なし
　切り直し

辞書プロファイル名　[C:¥DOS¥MULTDICT.PRO　＞
個人別辞書名　　　　[C:¥$USRDICT.DCT　＞

左右移動：←キーまたは→キー　　PF3：設定中止　Esc：前画面
上下移動：↑キーまたは↓キー　　Enter(改行)：設定

この画面で希望する項目（オプション）を選択し設定します。

注:　「辞書プロファイル名」、「個人別辞書名」は半角文字で入力してください。パス名の最長入力文字数は半角文字で64文字までです。

7 設定後は、画面の指示にしたがって、操作を進めてください。

電源切断まで有効、次回始動時は無効になる設定

「連文節変換のオプション設定」メニューを使って、またはCONFIG.SYSファイルを書き替えて、設定した各種オプションのうち次の項目については、「かな漢字制御メニュー」の「設定」を使って、電源を切るまでの間、一時的に変更することができます。

- 変換位置（スポット変換・定位置変換）
- 定位置確定（文字・改行キー）
- 変換方法（自動・先読・一括・複合・文節）
- 番号入力（JIS・IBM）
- 学習保存（あり・なし）

設定手順

1 [Ctrl] + [Alt] + [半角/全角] (注) キーを押してください。画面の下部に「かな漢字制御メニュー」が表示されます。

選択されているものは輝度反転しています。輝度反転は [←] または [→] キーで移動します。

注: 「単語登録」を選択すると、頻繁に使用する語句に読みをつけて登録することができます。（2-17ページの『変換できないことばを登録する（単語登録）』を参照）

2 [←] または [→] キーで「設定」を輝度反転させ、[Enter]（改行）押してください。

最初の選択項目が表示されます。

- 選択肢を選ぶには、[←] または [→] キーを使います。
- 次の選択項目に移るには [↓] キー、前の選択項目に移るには [↑] キーを使います。

必要に応じて3-1ページの『各オプションの説明』を参照し、設定を変更してください。

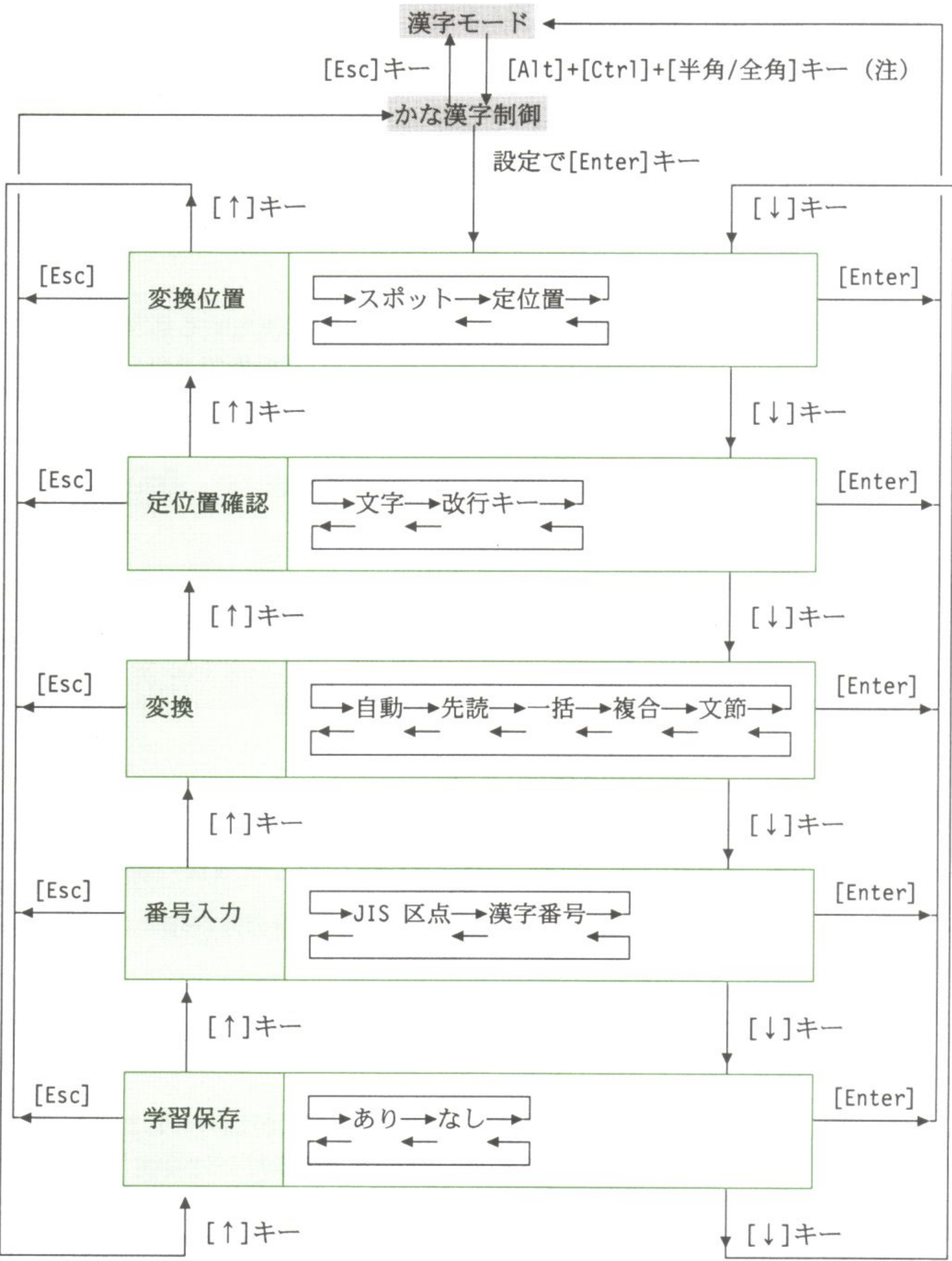
注: 日本語3270PCまたは日本語5250PCがロードされていないときには、「番号入力」を「JIS区点」から「漢字番号」に変更することはできません。

3 設定が終了したら [Enter]（改行）を押してください。[Esc] キーを押すとそれまでの設定内容は失われ、かな漢字制御メニューに戻ります。

注: かな漢字制御メニューにおける操作の方法については、3-8ページの『かな漢字制御メニューの流れ図』にまとめてありますので参照してください。

- かな漢字制御メニューでの設定は、電源を切るまで有効です。一度電源を切って次に開始するときは、『連文節変換プログラムのオプションの設定』画面またはCONFIG.SYSファイルで設定した機能で始動します。

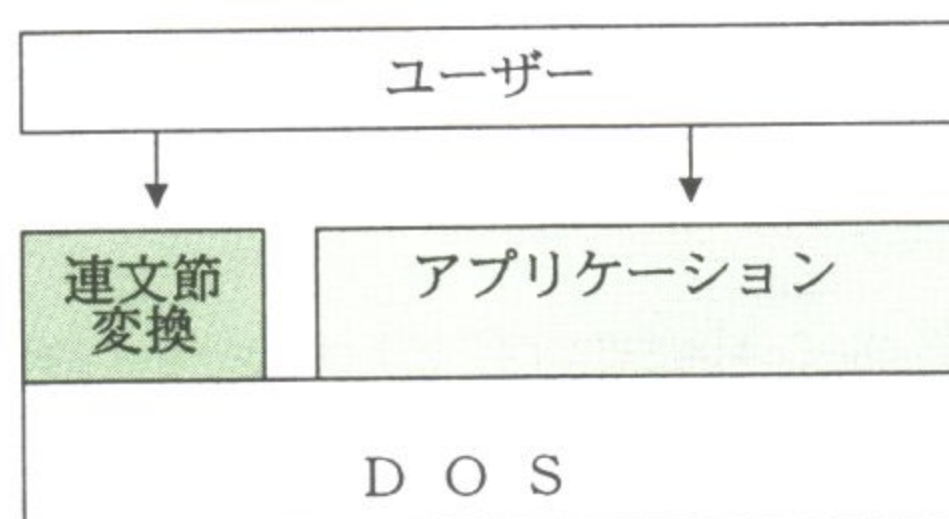
(注) 5576-A01型以外のキーボードをお使いの方は、付録C,『キーボードとキーの割り当て』を参照して読み替えてください。

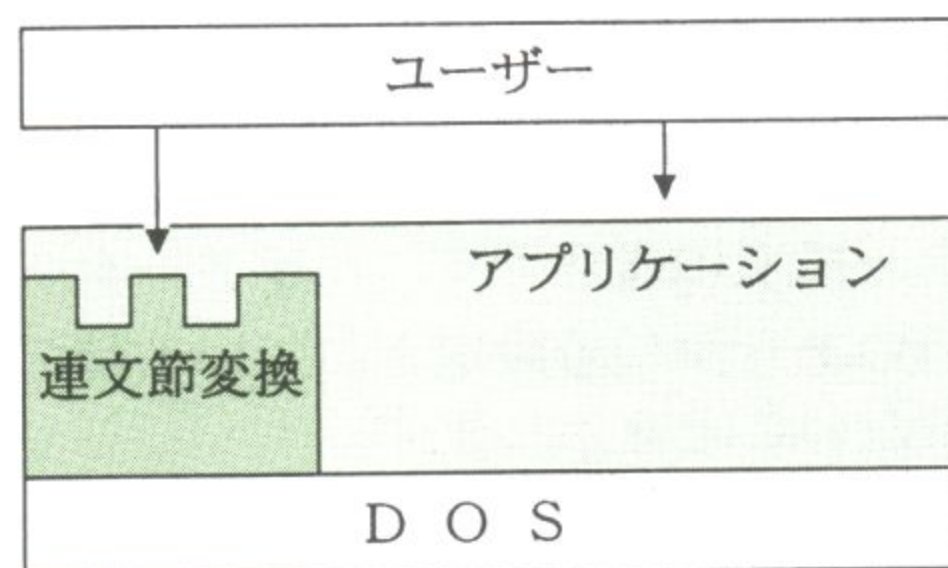
かな漢字制御メニューの流れ図

（注）：Ａ０１型キーボード以外をお使いの場合は、付録Ｃを参照してキーを読み替えてください。

第4章　連文節変換プログラムをより快適に使うために

アプリケーション・プログラムとの関係

本書では、連文節変換を直接DOSのもとで使用した場合について解説しています。アプリケーション・プログラム上で用いた場合には、アプリケーション・プログラムの種類によって、連文節変換が直接用いられる場合とアプリケーション・プログラムを介して用いられる場合があります。

連文節変換を直接利用する場合

この場合の例は*パーソナル・エディター*、*Multiplan*、などで、連文節変換の機能を直接利用できます。ただし、アプリケーションによっては変換位置が固定されている場合があります。

アプリケーション・プログラムを介する場合

この場合の例は、*DOS文書プログラム*で連文節変換の機能を間接的に利用するので操作が多少異なります。

またCONFIG.SYSファイルでのオプション指定は一部無効になることがあります。アプリケーション・プログラム固有の操作については、それぞれのマニュアルを参照してください。

オプションの詳細

CONFIG.SYSファイル中での指定

連文節変換を使用するには、CONFIG.SYSファイルで連文節変換を指定することが必要です。同時に、連文節変換の機能を**パラメーター**で設定します。パラメーターの設定および変更はカスタマイズ・ユーティリティー「SETUPMKK」を使っても、直接CONFIG.SYSを編集してもかまいません。ファイルを直接編集するためには、**Eエディター**などのファイル編集プログラムを使用してください。

1 DOS/Vの導入で「連文節変換プログラムの導入」を選択した場合には、DOS/Vの導入プログラムが下記のステートメントをCONFIG.SYSに書き込みます。

```
INSTALL=<ドライブ><パス名>IBMMKKV.EXE <オプション>
```

例:

```
INSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE /M=S /L /J=90 /S=C:¥DOS¥MULTDICT.PRO /U=C:¥$USRDICT.DCT
```

注:

1. 連文節変換プログラムを使用するには、CONFIG.SYSファイルを書き直した後、1度電源を切ってDOSを再始動してください。
2. 以降の例ではIBMMKKV.EXE、MULTDICT.PROがC:¥DOS、$USRDICT.DCTがC:¥にあるものと仮定しています。

オプションのパラメーター

オプションとして使用するパラメーターは次の通りです。パラメーターを指定しないと省略時の設定値が使われます。導入時のあらかじめ設定されている値の欄で"-"となっているものはパラメーターが指定されないことを示します。

パラメーター	パラメーター設定時の機能	省略時の機能	導入時のあらかじめ設定されている値
/T	定位置変換の選択	スポット変換	-（スポット変換）
/K	定位置変換時の確定を改行キーとする	文字確定	-
/M=J /M=F /M=S /M=I /M=B	自動変換の使用 複合語変換の使用 連文節先読変換の使用 連文節一括変換の使用 単文節変換の使用	連文節先読変換	/M=S（連文節先読変換）
/I	IBM漢字番号の使用	JIS区点	-（JIS区点）
/L	学習保存あり	学習保存なし	-（学習保存あり）
/R	RAM辞書を利用	利用しない(注2)	- (利用しない)
/S=fn	辞書プロファイル名fnの指定	C:¥IBMBASE.DCTを使用 (注1, 2)	/S=C:¥DOS¥MULTDICT.PRO
/U=fn	個人別辞書のドライブ、パス指定	C:¥$USRDICT.DCTを使用 (注1, 2)	/U=C:¥$USRDICT.DCT
/Z=0～7 (1を除く)	自動全候補の回数指定	自動全候補なし	/Z=4
/C	自動文節切り直し機能を使用する	使用しない	/C
/J=78,83,90	JIS区点番号セットを指定する (注3)	90年度版セット	/J=90

例:

```
INSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE /M=I /L /S=C:¥DOS¥MULTDICT.PRO /Z=5 /C
```

注:

1. 4-29ページの『辞書について』を参照してください。
2. 以下のオプションは同時に設定することはできません。
   - RAM辞書(/R)と辞書プロファイル(/S=fn)、個人別辞書(/U=fn)

   もしこれらのオプションを指定した場合、基本的には先に書かれたオプションが有効となりますが、その順番によっては次の表のように解釈されます。

オプションの順番	解釈
/R・/S・/U	RAM辞書導入あり、辞書プロファイル・個人別辞書は無効
/R・/U・/S	RAM辞書導入あり、辞書プロファイル・個人別辞書は無効
/S・/R・/U	辞書プロファイル・個人別辞書指定あり、RAM辞書は無効
/S・/U・/R	辞書プロファイル・個人別辞書指定あり、RAM辞書は無効
/U・/R・/S	個人別辞書・辞書プロファイル指定あり、RAM辞書は無効
/U・/S・/R	個人別辞書・辞書プロファイル指定あり、RAM辞書は無効

3. 78年度版、83年度版、90年度版の違いは次の表の通りです。

表 4-1 (1/2). 78、83、90年度版JIS区点番号表

漢字	78年版	83年版	90年版
鰺	8245	1619	1619
鯵	1619	8245	8245
鶯	8284	1809	1809
鴬	1809	8284	8284
蠣	7358	1934	1934
蛎	1934	7358	7358
攪	5788	1941	1941
撹	1941	5788	5788
竈	6762	1986	1986
竃	1986	6762	6762
灌	6285	2035	2035
潅	2035	6285	6285
諫	7561	2050	2050
諌	2050	7561	7561
頸	8084	2359	2359
頚	2359	8084	8084
礦	6672	2560	2560
砿	2560	6672	6672
蘂	7302	2841	2841
蕊	2841	7302	7302

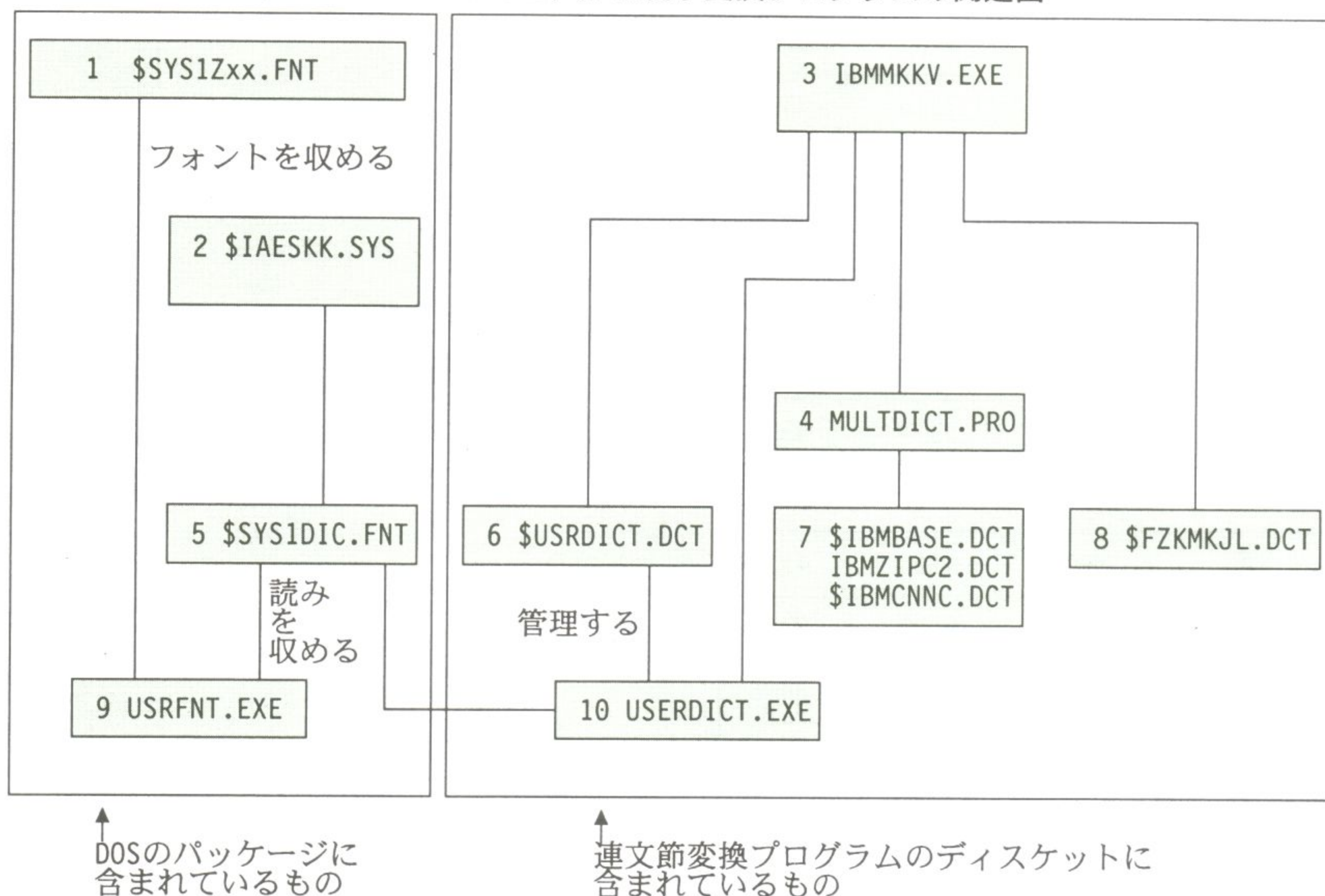
表 4-1 (1/2). 78、83、90年度版JIS区点番号表

漢字	78年版	83年版	90年版
靱	8055	3157	3157
靭	3157	8055	8055
賤	7645	3308	3308
賎	3308	7645	7645
壺	5268	3659	3659
壷	3659	5268	5268
礪	6674	3755	3755
砺	3755	6674	6674
檮	5977	3778	3778
梼	3778	5977	5977
濤	6225	3783	3783
涛	3783	6225	6225
邇	7778	3886	3886
迩	3886	7778	7778
蠅	7404	3972	3972
蝿	3972	7404	7404
檜	5956	4116	4116
桧	4116	5956	5956
儘	4854	4389	4389
侭	4389	4854	4854

表 4-1 (2/2). 78、83、90年度版JIS区点番号表

漢字	78年版	83年版	90年版
藪	7314	4489	4489
薮	4489	7314	7314
籠	6838	4722	4722
篭	4722	6838	6838
堯	8401	2238	2238
尭	2238	8401	8401
槇	8402	4374	4374
槙	4374	8402	8402
遙	8403	4558	4558
遥	4558	8403	8403
瑤	8404	6486	6486
瑶	6486	8404	8404
∵	11528	0272	0272
¬	11521	0244	0244
昂	11650	11650	2523
昻	2523	2523	11650
熙	6370	6370	8406
凜	-	-	8405
熈	-	-	6370

DOS上でのかな漢字変換ファイル関連図

辞書、USRFNT.EXE、USERDICT.EXE、かな漢字変換プログラムの関連図

注: 図中の.SYSと.EXEはプログラムを、それ以外はデータ・ファイルを表しています。

1 $SYS1Zxx.FNT(フォント・ファイル)は、ユーザー・フォントです。

2 $IAESKK.SYS(DOS/V用単漢変換プログラム)は、5 $SYS1DIC.FNT(単漢変換辞書)を用いて単漢変換を行います。

3 IBMMKKV.EXE(DOS/V用連文節変換プログラム)は、7 $IBMBASE.DCT (ベース辞書)とIBMZIPC2.DCT(郵便番号辞書)、$IBMCNNC.DCT(国名コード辞書)などのシステム辞書、8 $FZKMKJL.DCT(付属語学習辞書)および6 $USRDICT.DCT(個人別辞書)を用いて連文節変換をします。

4 マルチ辞書用プロファイルは、7の中のどの辞書を使用するか/使用しないかを指定するために用います。MULTDICT.PROは7の中の辞書すべてを使用する状態になっています。

9 USRFNT.EXE(ユーザー・フォント・ユーティリティー)は、自分でフォントを作成するときに用いるもので、作成したフォントは1に、そのフォントに付けた読みは5に収めます。

10　USERDICT.EXE(個人別辞書ユーティリティー)は、個人別辞書を管理するために用います。また、「単漢変換辞書と個人別辞書の組合せ」の機能を用いると9で作成し5に収めた読みを拾って6に付け加えることができます。

USERDICT.EXEは3の機能を利用して動作しますので、3がない場合は起動しません。

個人別辞書を管理する

個人別辞書ユーティリティー (USERDICT.EXE)は、連文節変換プログラムが使用している個人別辞書を管理するユーティリティーです。個人別辞書ユーティリティーは連文節変換プログラムの機能を利用して動作しますので、連文節変換プログラムが導入されていないと起動しません。

次のようなことを行うことができます。

- ユーザーがよく使用する語句を個人別辞書に登録したり、登録した読みや語句を削除します。

  たとえば、

  - 難しい人名、地名、専門用語などを登録する。
  - よく使う文章、たとえば自分の住所を[じゅうしょ]などの読みで登録する。

- 2つの個人別辞書を組み合せて、使用目的に応じた個人別辞書を作成することができます。
- 単漢変換辞書（ユーザーの定義した語句が含まれている$SYS1DIC.FNTファイル）と個人別辞書を組み合せることができます。（$IAESKK.SYSが参照していた辞書と個人別辞書を組み合わせることができます）。
- 個人別辞書を印刷することができます。

個人別辞書ユーティリティーの機能は次のとおりです。

1. 個人別辞書の内容を更新する（4-10ページ）
2. 個人別辞書に追加する（4-13ページ）
3. 個人別辞書を印刷する（4-14ページ）
4. 辞書を組み合わせる（4-17ページ）
5. 個人別辞書を回復する（4-23ページ）

個人別辞書ユーティリティーを始動する

個人別辞書ユーティリティーは、個人別辞書を管理するDOSの実行プログラムです。DOSプロンプトに対して、USERDICTとタイプして始動します。

DOSプロンプトが出ている状態で、

```
USERDICT
```

とタイプして Enter (改行)を押してください。

次の初期画面が表示されます。

```
個人別辞書　ユーティリティー

番号
  1  更　新
  2  追　加
  3  印　刷
  4  組合せ
  5  回　復
  6  終　了

（番号）入力後，Enter(改行)キー。
```

個人別辞書ユーティリティーを終了する

個人別辞書の初期メニューで 6 キーを押した後、 Enter (改行)を押して「終了」を選択すると、個人別辞書ユーティリティーが終了します。

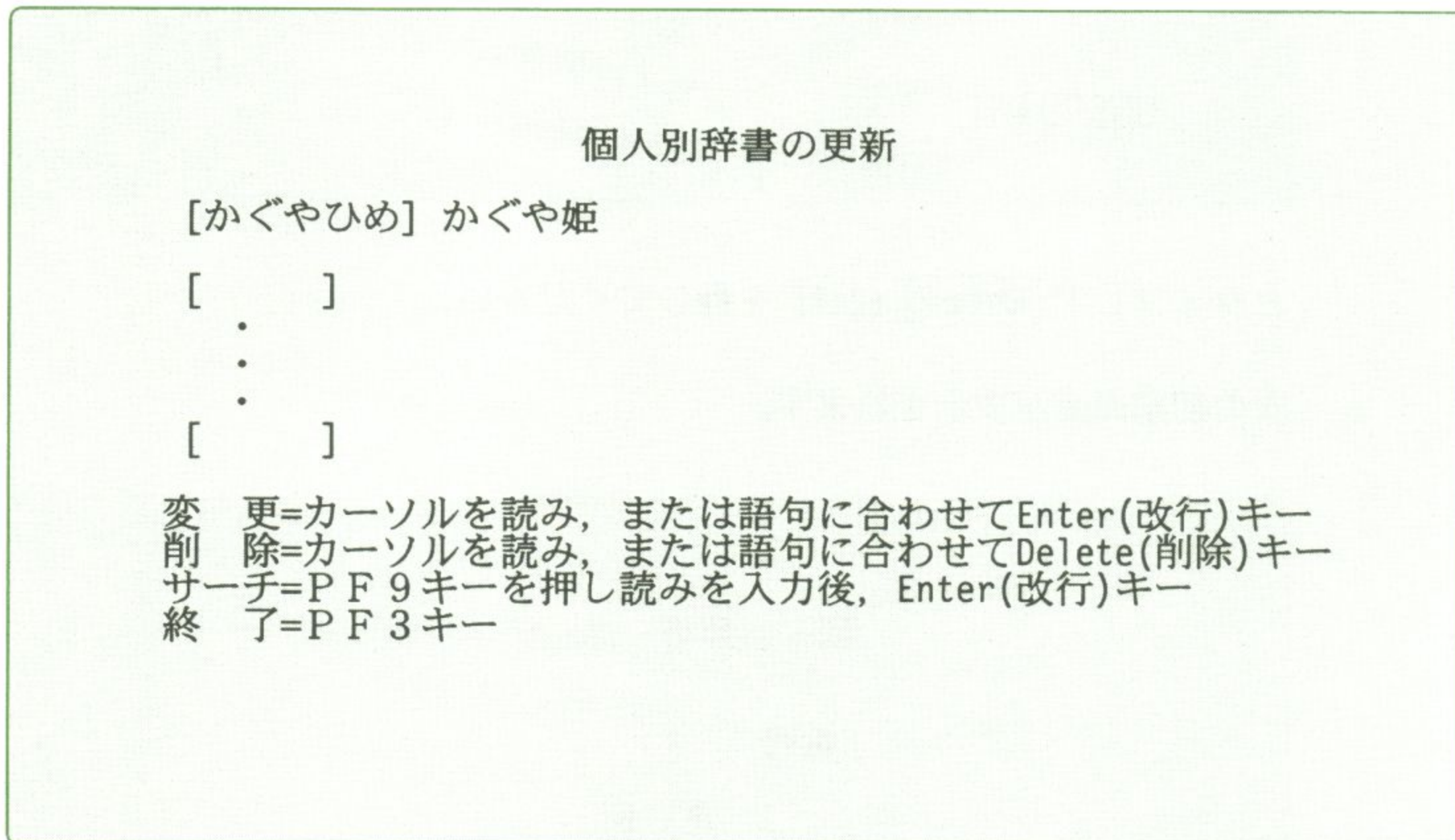
1 個人別辞書ユーティリティーでの作業を終了し、初期メニュー画面に戻ってください。

それぞれの作業から初期メニューに戻るには F3 キーを押してください。

2 初期メニューで 6 キーを押した後 Enter (改行)を押して、「終了」を選択してください。

個人別辞書の内容を更新する

個人別辞書に登録されている「読み」や「語句」の変更や削除をします。

個人別辞書の初期メニューで 1 キーを押した後、 Enter (改行)を押すと、個人別辞書の更新メニューが表示されます。

一度に表示できる更新の対象となる読みと語句の範囲は、上図に示すとおり4行目から15行目までの12行です。カーソルを移動させると該当行の表示範囲外にある部分を表示させることができます。

カーソルの移動

← キーと → キーを押すと、カーソルは「読み」または「語句」の先頭に水平方向に移動します。カーソルが画面の最右端または最左端にある場合は、水平方向にスクロールします。

Alt +← キーと Alt +→ キーを押すとカーソルは、画面の最右端または最左端の「読み」または「語句」の先頭に移動します。カーソルが画面の最右端または最左端にある場合は、水平方向にスクロールします。

↑ キーと ↓ キーを押すとカーソルは、垂直方向に行単位に移動します。カーソルが画面の最上行、最下行にある場合は、1行分スクロールします。

Alt +← キーと Alt +→ キーを押すとカーソルは、画面の最上行、最下行に垂直方向に移動します。カーソルが画面の最上行、最下行にある場合は、それぞれ前ページ、次ページに画面が変わります。

更新したい語句の読みを探す

更新したい語句の読みが最初から画面に表示されているとは限りません。登録している語句が多く、カーソル・キーだけで語句を探すのが大変な場合、読みのサーチ機能を指定します。

1. 個人別辞書の初期メニューで 1 キーを押した後、 Enter (改行)を押して、「個人別辞書の更新」画面を表示させてください。
2. F9 キーを押してください。
3. プロンプト行から探したい「読み」を入力してください。
4. Enter (改行)を押してください。

読み「かぐやひめ」を探す時は、次のようにします。

例

1. F9 キーを押してください。
2. 画面の下の方に

   ```
   (読み) 入力後、Enter(改行)キー。
   ```

   というメッセージが表示されますので、「かぐやひめ」と入力してください。
3. かぐやひめの部分が輝度反転します。

登録されている語句の内容を変更する

すでに登録されている語句を変更します。

1. 個人別辞書の初期メニューで 1 キーを押した後、 Enter (改行)を押して、「個人別辞書の更新」画面を表示させてください。
2. 表示領域に変更の対象となる「読み」または「語句」を表示してください。
   - カーソルまたはサーチ機能で変更の対象を表示領域に表示してください。
3. 表示領域に変更の対象となる「読み」または「語句」が輝度反転するようカーソルで指示してください。
   - カーソルは ← 、 → 、 ↑ 、 ↓ キーで希望する位置に移動します。

   Enter (改行)を押して、プロンプト行に「読み」または「語句」を移動します。
4. プロンプト行に表示される「読み」または「語句」を変更してください。

- タイプできる「読み」は、10文字以内の全角のひらがなです。
- タイプできる「語句」は、20文字以内の全角文字です。
- カーソルの移動およびタイプを間違えた場合、[←]、[→]、[Back Space]キーを使用してください。
- タイプを中止して個人別辞書の更新メニューに戻る場合、[Esc]キーを押します。

5 [Enter] (改行)を押してください。

登録されている語句を削除する

「個人別辞書の更新」画面では、登録されている「語句」の一部あるいはすべてを削除することができます。「読み」を削除すると、その「読み」で登録されている「語句」もすべて削除されます。登録されている「語句」をすべて削除すると、対応する「読み」も削除されます。

1 個人別辞書の初期メニューで[1]キーを押した後、[Enter] (改行)を押して、「個人別辞書の更新」画面を表示させてください。

2 表示領域に削除の対象となる「読み」または「語句」を表示してください。

- カーソルまたはサーチ機能で変更の対象を表示領域に表示します。
- カーソルは[←]、[→]、[↑]、[↓]キーで希望する位置に移動します。

3 [Delete]キーを押してください。

4 削除する場合は[Enter] (改行)、中止する場合は[Esc]キーを押してください。

個人別辞書に追加する

システム辞書にない読みや、よく使用する語句（文章）を希望の読みで辞書に登録します。

個人別辞書の初期メニューで [2] キーを押した後、 [Enter] (改行)を押して「追加」を選択すると、次の画面が表示されます。

```
                    個人別辞書の追加

        読み : [_          ]
        語句 : [                    ]




  終　了=ＰＦ３キー

  (読み)及び(語句)入力後，Enter(改行)キー
```

1 個人別辞書の初期メニューで [2] キーを押した後、 [Enter] (改行)を押して、「個人別辞書の追加」画面を表示させてください。

2 「（読み）及び（語句）入力後、Enter（改行）キー」のメッセージが表示されたら、辞書に登録する「読み」と「語句」をひらがなで入力してください。

- 「読み」は10文字以内のひらがなです。
- 「語句」は20文字以内の全角文字です。
- 入力を間違えた場合、 [←]、 [→]、 [↑]、 [↓]、 [Back Space] キーでカーソルを移動して書きなおします。
- タイプを中止して個人別辞書の追加メニューに戻る場合、 [Esc] キーを押します。

3 [Enter] (改行)を押してください。

注: 読みに対応する語句は、1度に1つしか登録できません。1つの読みに複数の語句を登録する場合、1つ登録するごとに [Enter] (改行)を押してください。

個人別辞書を印刷する

個人別辞書の内容を印刷します。

個人別辞書の初期メニューで 3 キーを押した後、 Enter (改行)を押して「印刷」を選択すると、次の画面が表示されます。

```
                    個人別辞書の印刷

    印刷部数            [ 1 ]          1～999部

    用紙の種類          [ 2 ]          1 :単票 (手動)
                                       2 :単票 (自動)
                                       3 :連続用紙

    上部余白付加        [ 2 ]          1 :有
                                       2 :無

    左側余白付加        [ 2 ]          1 :有
                                       2 :無

  終了=ＰＦ３キー
  (設定値) 入力後, Enter(改行)キー
```

印刷部数、用紙の種類、上部余白付加、左側余白付加を指定してください。指定しない場合、省略値として画面に表示されている値が設定されます。上部余白付加、左側余白付加については、4-15ページを参照してください。

1 個人別辞書の初期メニューで 3 キーを押した後、 Enter (改行)を押して、「個人別辞書の印刷」画面を表示させてください。

2 画面に表示されている省略値を変更する場合、次のように入力してください。

- カーソルの移動する場合、 ← 、 → 、 ↑ 、 ↓ 、 Tab キーを使用してください。
- 入力した値を取り消す場合、 Esc キーを押してください。更にもう一度 Esc キーを押すと初期メニューに戻ります。
- 入力を間違えた場合、 Esc キーまたは Back Space キーを押してください。
- 初期メニューに戻る場合、 F3 キーを押してください。

3 Enter (改行)を押してください。

メッセージ

- 単票（手動）を指定した場合、1ページ印刷するごとに次のメッセージを表示します。

```
用紙をセットして、プリンターをスタートさせてください。
```

用紙をセットして、プリンターのスタート・ボタンを押してください。

単票（自動）または連続用紙を指定した場合、自動的に改ページして印刷します。

- 印刷中、画面には次のメッセージが表示されます。

```
個人別辞書の印刷中
```

操作上の留意点

印刷中、次の操作をすると印刷は取り消されます。

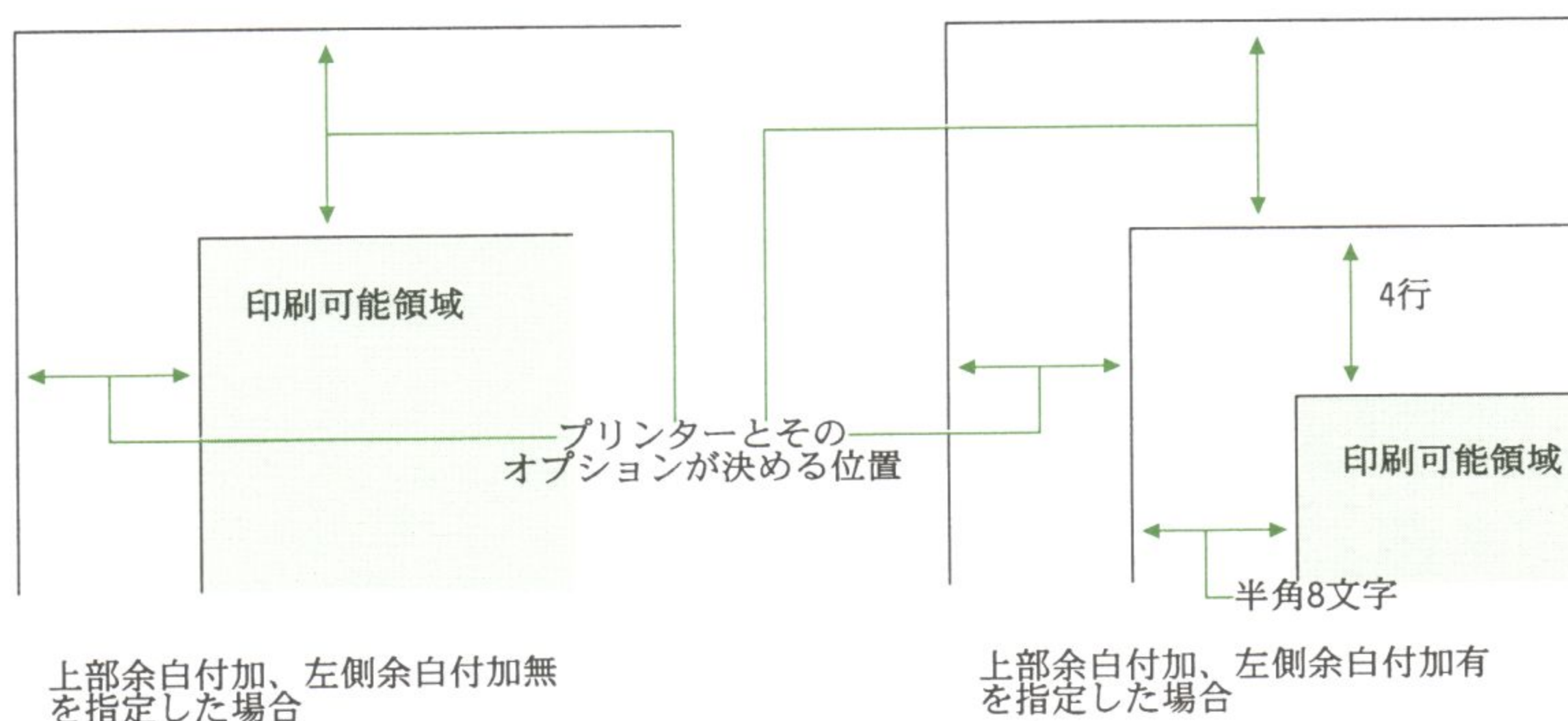
- キーボードで Esc キーを押す
- プリンターの 取消 ボタンを押す
- プリンターの電源スイッチをOFFにする

上部余白付加と左側余白付加

プリンターが印字する位置は次の2つの要素で決ります。

- 使用するプリンターとそのオプション
- 上部余白付加と左側余白付加の指定

単票用紙の場合56行、連続用紙の場合48行印刷されます。

上部余白付加と左側余白付加を指定することにより個人別辞書の印刷領域が次のように変ります。

印刷例

```
                    個人別辞書一覧表
[あいびいえむ]  東京都港区六本木３－２－１２
[でんわ]        ０３－９９９９－１１１１：０４５－１２３－４５６７
[ねこ]          トラ：きじ：三毛：白：黒
[ねんごう]      明治：大正：昭和：平成
```

印刷が終ったら、

```
個人別辞書の印刷が終了しました。
```

というメッセージが出ます。

辞書を組み合わせる

2つの個人別辞書を組み合わせるかまたは単漢変換辞書と個人別辞書を組み合わせて、新たに個人別辞書を生成します。

個人別辞書の初期メニューで 4 キーを押した後、 Enter (改行)を押して「組合せ」を選択すると、次の画面が表示されます。

```
                個人別辞書の組合せ

        番号
          1  個人別辞書の組合せ
          2  単漢変換辞書と個人別辞書の組合せ
          3  初期メニューに戻る

(番号)入力後，Enter(改行)キー
```

個人別辞書を別の個人別辞書と組み合わせて、新たに個人別辞書を生成する場合、「1」を選択してください。

単漢変換辞書と個人別辞書を組み合わせて、新たに個人別辞書を生成する場合、「2」を選択してください。この機能を使うとユーザーが$SYS1DIC.FNTに登録していた読みと語句をそのまま使えます。

注: 単漢変換辞書とは、$SYS1DIC.FNTを基本としてユーザーが作成した辞書($IAESKK.SYSを使用してかな漢字変換を行う場合、参照する辞書）のことです。

個人別辞書の組合せ

[1] キーを押した後 [Enter] (改行)を押して、「個人別辞書の組合せ」を選択すると、次の画面が表示されます。

```
                    個人別辞書の組合せ
                                 ドライブ名        ファイル名
          個人別辞書のファイル名1    [ ]       [                    ]
          個人別辞書のファイル名2    [ ]       [                    ]
          生成されるファイル名       [ ]       [                    ]
           生成した辞書を使って，かな漢字変換をする場合は
           初期メニューに戻り，DOSを再始動してください。



終了＝ＰＦ３キー。
[設定値] 入力後，Enter(改行)キー。
```

個人別辞書のファイル名1および個人別辞書のファイル名2は、$USERDICT.DCTを基本に個人別辞書ユーティリティーを使用して、ユーザーが定義した語句が登録されている辞書のファイル名を指しています。

個人別辞書のファイル名1、個人別辞書のファイル名2、生成されるファイル名は、ドライブ名とパス名を含んだファイル名を指定することができます。ドライブ名は、A～Zまで使用できます。

操作

1 個人別辞書の初期メニューで [4] キーを押した後、 [Enter] (改行)を押して「組合せ」を選択します。

2 個人別辞書の組合せメニューで [1] キーを押した後、 [Enter] (改行)を押して「個人別辞書の組合せ」を選択します。

3 ファイル名を入力してください。

- [←] キーと [→] キーを押すと、カーソルは水平方向に移動します。
- [↑] キーと [↓] キーを押すと、カーソルは入力領域の先頭に移動します。
- 文字を削除するには、 [Delete] キーまたは [Back Space] キーを押してください。
- 入力したファイル名を取り消す場合、 [Esc] キーを押してください。さらにもう一度押すと、初期メニューに戻ります。

- 初期メニューに戻る場合、F3キーを押してください。

4 Enter (改行)を押してください。

メッセージ

- 個人別辞書ファイル名1または個人別辞書ファイル名2と生成されるファイル名が同じ場合、次のメッセージが表示されます。

```
......,...の内容は変更されます。実行するならEnterキー、中止ならEscキー
```

- 組合せが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
辞書の組合せが終了しました。
```

操作上の留意点

生成した個人別辞書を使用する場合は、必ず初期メニューに戻り、DOSを再始動してください。

単漢変換辞書と個人別辞書の組合せ

2 キーを押した後 Enter (改行)を押して、「単漢変換辞書と個人別辞書の組合せ」を選択すると、次の画面が表示されます。

```
                単漢変換辞書と個人別辞書の組合せ
                              ドライブ名      ファイル名
    単漢変換辞書のファイル名      [ ]  [ $SYS1DIC.FNT   ]
     (基本部分)
    単漢変換辞書のファイル名      [ ]  [                ]
    個人別辞書のファイル名        [ ]  [                ]
    生成されるファイル名          [ ]  [                ]
        生成した辞書を使って，かな変換をする場合は
        初期メニューに戻り，DOSを再始動してください。

終了＝ＰＦ３キー。
[設定値] 入力後，Enter(改行)キー。
```

単漢字変換装置駆動ルーチン($IAESKK.SYS)で使用される辞書($SYS1DIC.FNT、以下単漢変換辞書と呼びます)と個人別辞書とを組み合わせて、新たに個人別辞書を作成します。

今まで単漢字変換を行っていて、その単漢変換辞書にUSRFNTユーティリティー（USRFNT.EXE）を用いてユーザーが定義した語句（熟語、読み付フォント）が登録されている場合、そのユーザー定義語句を個人別辞書に追加します。これにより、USRFNTユーティリティーで登録した語句を連文節変換プログラムで変換できます。

この機能は以下の処理によって実現されています。

ユーザー定義語句の切出し

*ユーザー定義語句が登録されていない*単漢変換辞書ファイル（DOSディスケットで提供されるもので、単漢変換辞書（基本部分）と呼びます）と、ユーザー定義語句が登録されている単漢変換辞書とを比較して、ユーザー定義語句だけを切り出します。

個人別辞書へのユーザー定義語句の追加

2つの単漢変換辞書ファイルの比較によって切り出されたユーザー定義語句を個人別辞書に追加します。

単漢変換辞書のファイル名（基本部分）は、*ユーザー定義語句が登録されていない*単漢変換辞書（$SYS1DIC.FNT）(DOSディスケットで提供）のファイル名を指しています。

単漢変換辞書のファイル名は、USRFNTユーティリティーでユーザーが定義した語句が登録されている単漢字変換辞書のファイル名を指しています。

個人別辞書のファイル名は、$USRDICT.DCTファイルを基本に個人別辞書ユーティリティーを使用してユーザーが定義した語句が登録されている辞書ファイル名を指しています。

生成されるファイル名は、組み合わせて生成された辞書のファイル名です。

単漢変換辞書のファイル名（基本部分）、単漢変換辞書のファイル名、個人別辞書のファイル名、および生成されるファイル名は、ドライブ名（A～Z）とパス名を指定することができます。

操作

1 個人別辞書の初期メニューで 4 キーを押した後、 Enter (改行)を押して、「組合せ」を選択します。

2 個人別辞書の組合せメニューで 2 キーを押した後、 Enter (改行)を押して「単漢変換辞書と個人別辞書の組み合わせ」を選択します。

3 ファイル名を入力してください。

- ← キーと → キーを押すと、カーソルは水平方向に移動します。
- ↑ キーと ↓ キーを押すと、カーソルは入力領域の先頭に移動します。
- 文字を削除するには、 Delete キーまたは Back Space キーを押してください。さらにもう一度押すと、初期メニューに戻ります。
- 入力したファイル名を取り消す場合、 Esc キーを押してください。
- 初期メニューに戻る場合、 F3 キーを押してください。

4 Enter (改行)を押してください。

メッセージ

- 単漢変換辞書（基本部分）および単漢変換辞書のファイルは、それぞれ他のファイルと異なる必要があります。同じファイルを指定すると次のメッセージが表示されます。

  ```
  同じファイル名を入力することはできません
  ```

  この場合、ファイル名を入力し直してください。

  個人別辞書のファイル名と生成されるファイル名は、同じでもかまいません。

- 個人別辞書のファイル名1と生成されるファイル名が同じ場合、次のメッセージが表示されます。

  ```
  ........,...の内容は変更されます。実行するなら実行キー、中止なら取消キー
  ```

- 組合せが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
辞書の組合せが終了しました
```

操作上の留意点

生成した個人別辞書を使用する場合、必ず初期メニューに戻り、DOSを再始動してください。

個人別辞書を回復する

個人別辞書の回復を行います。

「個人別辞書の回復をしてください」というメッセージが表示された場合、指定する必要があります。個人別辞書の初期メニューで 5 キーを押した後、 Enter (改行)を押して「回復」を選択すると、次の画面が表示されます。

回復が終了するとメッセージ行に次のメッセージが表示されます。

個人別辞書の回復が終了しました。

操作

1 個人別辞書の初期メニューで 5 キーを押した後、 Enter (改行)を押して、個人別辞書の「回復」を選択してください。

個人別辞書ユーティリティーのメッセージ一覧

表示されるメッセージの主なものについて、その原因と対処法についてまとめたものです。

値を入力してください

原因: 印刷または組合せのメニューにおいて、省略値を削除したまま、[↑]キーまたは[↓]キーを押した。

処置: 新しい値を入力する。

同じファイル名を指定することはできません

原因: 辞書の組合せにおいて、同じファイル名を次の場合指定した。

1. 個人別辞書のファイル名1とファイル名2が同じ
2. 単漢変換辞書（基本部分）と他のファイル名が同じ
3. 単漢変換辞書と他のファイル名が同じ

処置: 正しいファイル名を入力し直してください。

カーソルはこれより右には進めません

原因: カーソルが行幅の範囲を超えようとした。

処置: 必要なし

カーソルはこれより左には進めません

原因: カーソルが行幅の範囲を超えようとした。

処置: 必要なし

カーソルはこれより上には進めません

原因: カーソルが上限の範囲を超えようとした。

処置: 必要なし

カーソルはこれより下には進めません

原因: カーソルが下限の範囲を超えようとした。

処置: 必要なし

個人別辞書　回復中

原因: 個人別辞書の回復を図っています。

処置: 必要なし

個人別辞書がありません

原因: 個人別辞書がセットされていない。

処置: 個人別辞書をセットする。

個人別辞書がいっぱいです

原因: 個人別辞書の追加範囲が一杯になり、書き込む余地がなくなった。

処置: 個人別辞書ユーティリティーを始動し、更新を指定して不要な読みを削除する。

個人別辞書が読めません

原因: 個人別辞書の入っているディスクが物理的に破損している。

処置: 回復不能。連文節変換プログラムのディスケットから個人別辞書を再導入する。

個人別辞書に書き込みができません

原因: 個人別辞書の入っているディスケットが書き込み禁止状態になっている。

処置: 書き込み可能にする。

個人別辞書の回復が終了しました

原因: 個人別辞書の回復が終了した。

処置: 必要なし

個人別辞書の回復が必要です

原因: 何らかの理由で辞書が使用できなくなり、読むことができない。

処置: 個人別辞書ユーティリティーを始動し、回復を指定する。

個人別辞書の回復は必要ありません

原因: 必要がないのに、個人別辞書の回復を指定した。

処置: 個人別辞書ユーティリティーを終了する。

語句の入力がありません

原因: 読みだけを入力して Enter (改行)を押した。

処置: 語句を入力し、 Enter (改行)を押す。

語句の入力に誤りがあります

原因: 語句に不適当な文字を入力した。

処置: Back Space キーを使って訂正する。

指定された読みは個人別辞書には登録されていません

原因: 個人別辞書の更新で登録されていない読みをサーチしようとした。

処置: 読みの指定をし直す。

単語登録はできません

原因: 個人別辞書へのアクセス（READ/WRITE）が失敗した。

処置: 正しい個人別辞書がセットされているか確認後、再度実行する。

ディスケットが一杯です

原因: 辞書の組合せ中、ディスケットが一杯になった。

処置: 新しい辞書を作成するのに十分な空き領域を含むディスケットを使用する。

入力文字が長すぎます

原因: 入力文字が範囲を超えている。

処置: [Insert] キーを押して、置換モードにしてから入力する。入力可能な範囲内で入力し直す。

範囲外の値が指定されています

原因: 印刷メニューにおいて、指定した値が範囲を超えていた。または組合せメニューにおいてファイルに誤りがあった。

処置: 値を入力し直す。

無効なキーが押されました

原因: 無効なキーが押されました。

処置: 必要なし

メモリー不足のため、実行できません

原因: 個人別辞書ユーティリティーを実行するだけのメモリーがありません。

処置: 実行中のプログラムを終了するなどしてメモリーを空けてください。

読みと語句はすでに個人別辞書に登録されています

原因: 登録しようとした読みはすでに登録されていた。

処置: 登録の必要はありません。

読みの入力がありません

原因: 語句だけを入力して [Enter] (改行)を押した。

処置: 読みを入力して [Enter] (改行)を押す。

読みの入力に誤りがあります

原因: 読みに不適当な文字を入力して [Enter] (改行)を押した。

処置: 読みを入力して [Enter] (改行)を押す。

連文節変換プログラムが導入されていません。

原因: 連文節変換プログラムが導入されていません。

処置: 個人別辞書ユーティリティーは連文節変換プログラムが必要です。
連文節変換プログラムを導入してから起動してください。

辞書について

連文節変換プログラムでは次のような辞書を使って変換を行います。

1. マルチシステム辞書（最大8個まで同時に使える）
2. 個人別辞書（$USRDICT.DCT）
3. 付属語学習辞書（$FZKMKJL.DCT）

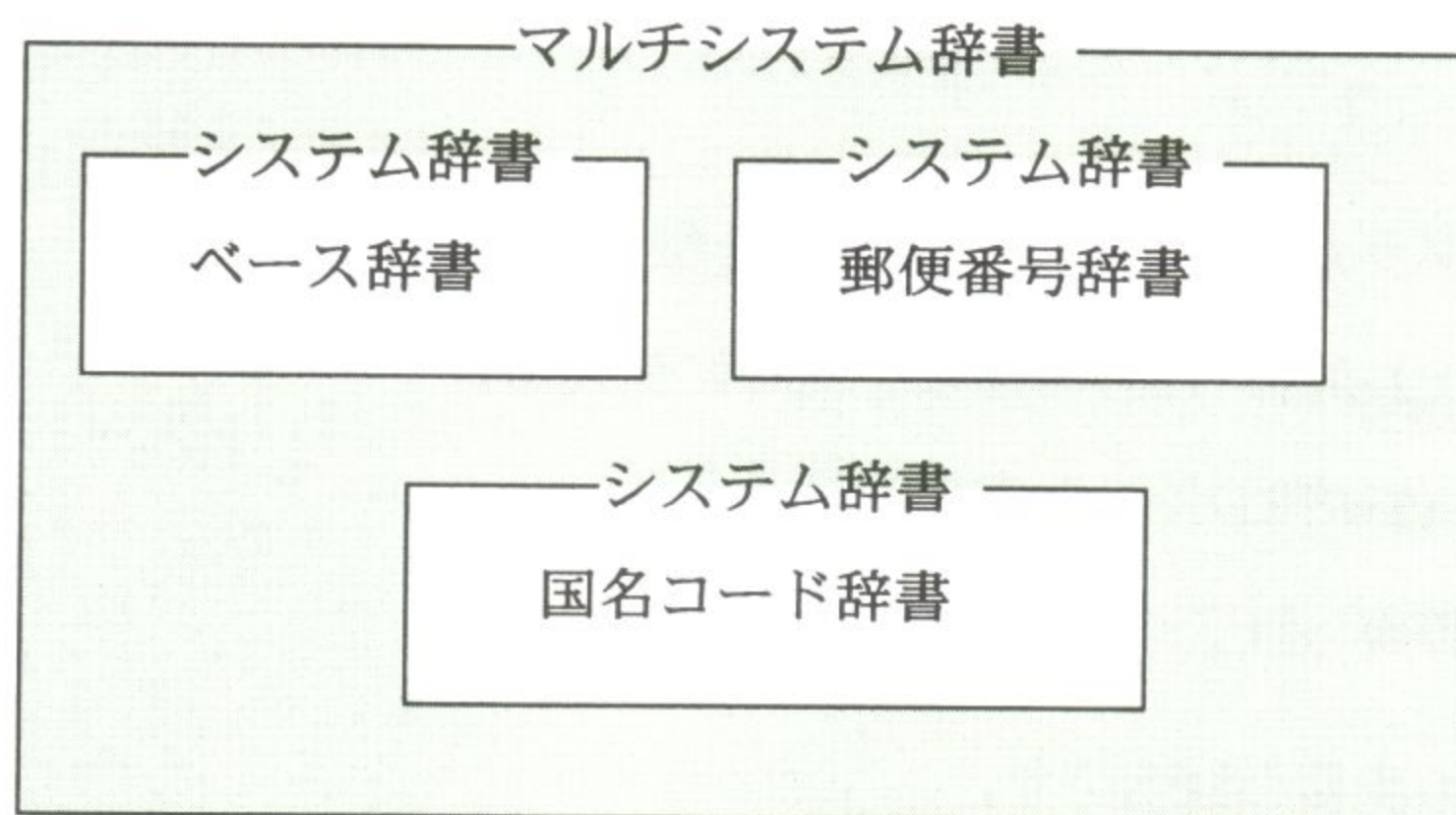
以下はそれぞれの辞書の説明です。

マルチシステム辞書

連文節変換プログラムでは最大8個のシステム辞書が使えます。同時に1個以上のシステム辞書が使えるので総称してマルチシステム辞書と呼びます。「連文節変換プログラム」ディスケットで提供される辞書は、下記のベース辞書、用途別辞書です。システム辞書はすべて読み出し専用ファイルなので書き込みはできません。

辞書名	内容	読み
ベース辞書		
$IBMBASE.DCT （ベース辞書）	名詞、動詞、単漢字など 例:本、書く、など約83000語を収録	ひらがな ほん、かく など全角ひらがな
用途別辞書		
IBMZIPC2.DCT （郵便番号辞書）	郵便番号に対応した地名 例: 宮崎県宮崎市	全角数字（郵便番号） 880 (読みのサンプルとして、県庁所在地および東京23区の郵便番号が用意されています。)
$IBMCNNC.DCT (国名コード辞書)	JIS国名コードに対応した国名 例:アメリカ合衆国	全角英字（国名コード） USA (読みのサンプルとして、「JISハンドブック 情報処理 コード編、国名コード X 0304 1988」の2文字、3文字コードが用意されています。)

辞書を管理するプロファイルとして以下の辞書プロファイルが提供されます。

- **MULTDICT.PRO**　マルチ辞書用プロファイル

これらのファイルは、導入プログラムにより「連文節変換プログラム」ディスケットからハード・ディスクへ、複写されます。

辞書用プロファイルの内容

辞書プロファイルはエディターで編集できます。また、辞書プロファイルの名前MULTDICT.PROは、ABCDEFG.PROのように変更して使用できます。(エクステンションは.PROで固定です。)導入プログラムを使ってあらかじめ設定されている値で導入した場合は、MULTDICT.PROが使われます。

MULTDICT.PROの内容は導入時、次のようになっています。

MULTDICT.PRO

```
* IBM Dictionaries
/MD=1 C:¥$IBMBASE.DCT
/MD=1 C:¥IBMZIPC2.DCT
/MD=1 C:¥$IBMCNNC.DCT
```

注: プロファイルの先頭の一行" * IBM Dictionaries"は必ず入れてください。これがない場合、プロファイルは無効となります。

辞書プロファイルでは行の先頭は必ず/MD=で始まらなければなりません。/MD=は、辞書プロファイルのキーワードでその直後は0か1です。ただし、行頭に「*」があるとその行はコメントとして無視されます。

- **/MD=1**　その辞書を使用する
- **/MD=0**　その辞書を使用しない

— 初期変換では辞書に記述されている文法情報や頻度情報などにより候補が決ります。

— 次候補もしくは全候補の場合は、プロファイルに記述してある順序で辞書の優先度が決りますので、同じ読みのエントリーが複数の辞書に存在して同一頻度情報の場合、プロファイルに記述されている順番で次候補もしくは全候補が出現します。

— 同じ読みに対してエントリーが重複している場合は、最初の1つを候補として表示し、残りは省略されます。

マルチシステム辞書の指定方法

CONFIG.SYS中の"IBMMKKV.EXE"の"/S"オプションで、辞書プロファイルをセットします。

例:

```
INSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE /S=C:¥DOS¥MULTDICT.PRO
```

CドライブのDOSディレクトリーにある辞書プロファイルMULTDICT.PROを指定する例です。MULTDICT.PROの中には使用する辞書が記述されています。辞書プロファイルを使うと、同時に複数のシステム辞書を使うような設定ができます。

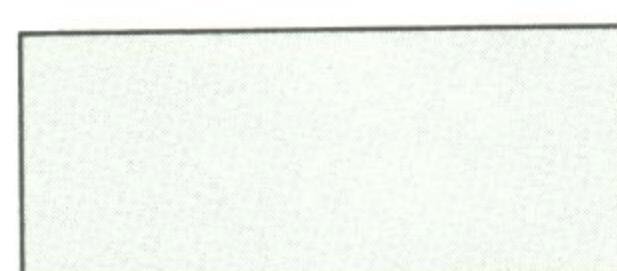
プロファイルを指定しなかった場合には、

C:¥$IBMBASE.DCT

を使用します。

個人別辞書（$USRDICT.DCT）

個人別辞書（$USRDICT.DCT）は単語登録や個人別辞書ユーティリティー(USERDICT.EXE)によって、登録した語句や学習内容を保存しておく読み書き可能なファイルです。（もちろんWindows上で単語登録した場合もこの辞書に登録されます。）個人別辞書ユーティリティー(USERDICT.EXE)によって、その内容を追加したり削除したり変更したりすることができます。（学習内容に関してはできません。）

個人別辞書は約58Kバイトですが、登録できるエリアは約50Kバイトです。単語登録をする度にサイズが大きくなっていくのではありません。導入時には空の状態で、語句を追加する度に辞書の内容が埋められていく構造になっています。登録できる語句の最大数は登録する語句の長さにもよりますが、約4,500語ほど登録できます。

個人別辞書の指定方法

CONFIG.SYS中のIBMMKKV.EXEの"/U"オプションで個人別辞書($USRDICT.DCT)のドライブ、パス指定をすることができます。付属語学習辞書($FZKMKJL.DCT)も同じディレクトリーにあると仮定されます。

例:

```
INSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE /U=E:¥UD¥$USRDICT.DCT
```

EドライブのUDディレクトリーにある$USRDICT.DCTを指定する例です。

もし指定しなかった場合は、

C:¥$USRDICT.DCT

を使用します。

付属語学習辞書（$FZKMKJL.DCT）

付属語の漢字表記を学習するための読み書き可能な辞書です。*必ず個人別辞書と同じ場所になければなりません。*

付録A. プログラムの導入（再導入と後日の導入）

連文節変換プログラムの導入方法

DOSの導入の際に「連文節変換 - MKK」を選択してください。DOSのインストールの際に指定せず、再導入や後日導入する場合には、DOSのDISK 1をディスケット・ドライブに挿入し、

```
A:¥>setup /e
```

とタイプし、 Enter (改行)を押してください。画面の指示に従って作業を続行し、「連文節変換プログラムの導入」を選択します。指示に従ってディスケットを交換してください。

注:

1. 連文節変換プログラムを導入した場合は、CONFIG.SYS に次の1行を加えてください。

```
install=c:¥dos¥ibmmkkv.exe /m=s /z=4 /c /l /j=90 /s=c:¥dos¥multdict.pro /u=c:¥$usrdict.dct
```

2. 連文節変換プログラムを使用するには、EMSメモリーが必要です。後日連文節変換プログラムを導入する際には、導入前にEMSメモリーが導入されていることを確認してください。EMSメモリーについてはDOSのマニュアルを参照してください。

必要な空き容量について

ハード・ディスクの必要な空き容量は約1MBです。

複写されるファイルとCONFIG.SYS中の設定

以下のファイルがルート・ディレクトリーに書き込まれます。

```
$IBMBASE.DCT
$IBMCNNC.DCT
IBMZIPC2.DCT
$USRDICT.DCT
$FZKMKJL.DCT
```

以下のファイルがDOSの導入の際に指定されたサブディレクトリー(デフォルトは¥DOS)に書き込まれます。

```
IBMMKKV.EXE
SETUPMKK.EXE
MULTDICT.PRO
USERDICT.EXE
```

以下の行がCONFIG.SYSに書き込まれます。

```
INSTALL=C:¥DOS¥IBMMKKV.EXE /M=S /Z=4 /C /L /J=90 /S=C:¥DOS¥MULTDICT.PRO /U=C:¥$USRDICT.DCT
```

注:

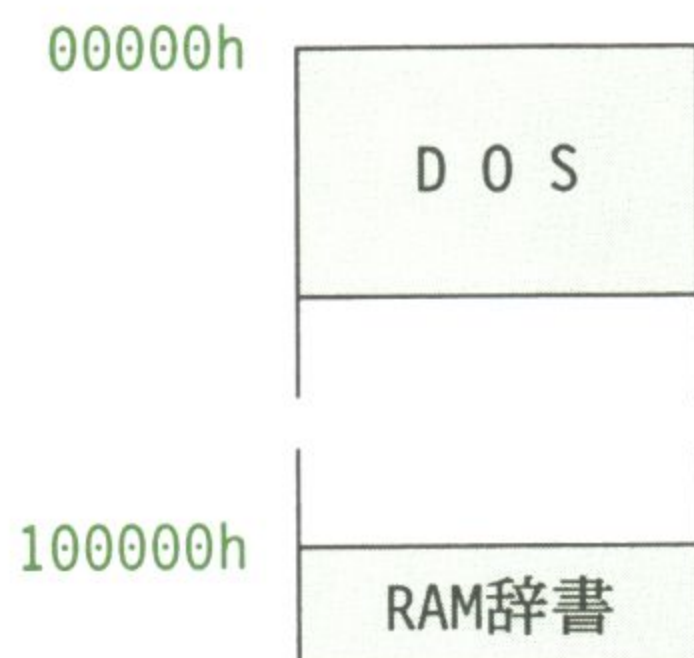
1. 各オプションについては4-2ページを参照してください。
2. DOSのセットアップ・プログラムは、旧バージョンの連文節変換プログラムを導入済みの場合は、CONFIG.SYS、辞書プロファイルの設定値を参照します。
3. $USRDICT.DCT, $FZKMKJL.DCTは、同じ場所にすでに存在している場合は上書きしません。
4. 連文節変換プログラムを導入すると、CONFIG.SYS中の単漢字変換プログラム($IAESKK.SYS)が設定してある場合、その設定を無効にします。

Windows上で連文節変換プログラムを使用する

まず、連文節変換プログラムが導入されていることを確認してください。Windowsの「プログラム マネージャ[メイン]」の中の「コントロールパネル」を開き、「かな漢」を選択します。「かな漢字変換の選択」のパネルが表示されますたら、「IASインターフェースかな漢字変換」を選択してください。

この設定によって、WindowsのDOSプロンプト上だけでなく、Windowsアプリケーション上（「ライト」など）でも、連文節変換プログラムが使えるようになります。詳しくはWindowsのマニュアルを参照してください。

付録B. RAM辞書を利用する

大容量のメモリーを備えたシステムをお使いの場合には、連文節変換のベース辞書と個人別辞書をメモリーの空きエリア（アドレス100000H = 1Mバイト以上）にロードして使用することができます。

これをメモリー(**Random Access Memory**)で使用するという意味で**RAM辞書**と呼びます。RAM辞書を利用すると、処理速度が早くなります。

RAM辞書を利用するには、オプションの**/R**を設定してください。ただし、辞書プロファイル(**/S=fn**)や個人別辞書の指定(/U=fn)と同時に設定することはできません。ベース辞書($IBMBASE.DCT)と個人別辞書($USRDICT.DCT)はCドライブのルート・ディレクトリー(C:¥)になければなりません。拡張メモリー・マネージャー (たとえばHIMEM.SYSやQEMM386.SYSなど)を使用している場合には、あらかじめメモリーを確保するために、拡張メモリー・マネージャーに必要なサイズを指定しておく必要があります。

連文節変換ではベース辞書（$IBMBASE.DCT）とユーザー辞書（$USRDICT.DCT）のみをメモリーに置けますので、そのサイズ（約890Kバイト）+（約50Kバイト）より多少大きめの950Kバイトを指定してください。「拡張記憶域が足りないため、RAM辞書が導入されませんでした。」というメッセージが出てRAM辞書が導入できなかった場合は、RAMを連文節変換プログラム以外のプログラムが使用している可能性がありますので、その分だけ値を増やしてください。

たとえばHIMEM.SYSを使う場合は、次のようになります。HIMEM.SYSに関してはDOSのマニュアルを参照してください。

例:

```
HIMEM.SYS /INT15=950
```

注: 950は辞書サイズです。

付録C. キーボードとキーの割り当て

PC DOS* バージョン J6.3/Vでは、5576-001、5576-002/003、5576-A01型およびその互換キーボード、ThinkPad*型、PS/2*の米国英語キーボード（101型キーボード）、5523-S/5535-S型のキーボード、AX**キーボードおよび東芝J3100ノートブック型キーボードが使用できます。

キーボードの相違点

5576-001型は、5556型のキーボード1と操作上の互換性が保たれています。これに対して5535-S型の一体型キーボード、5576-A01、ThinkPad型および5576-002/003型は、PS/2用キーボードのキー配列を元にSAA（システム・アプリケーション体系）に準拠したものですが、5576-001型にあるキーで5576-002/003型にはないキーがあったり、同じ機能でもキー操作が違うなどの相違点があります。

本書では、5576-A01型キーボードを使って説明してあります。これ以外のキーボードをお使いの方は、次の表を参照して該当するキーと読み換えてご使用ください。

また101型キーボードをお使いの方は、C-3ページの『米国英語キーボードでの使い方』を参照してください。AXキーボード、東芝J3100ノートブック型キーボードをお使いの方は、C-6ページの『その他のキーボードでの使い方』を参照してください。

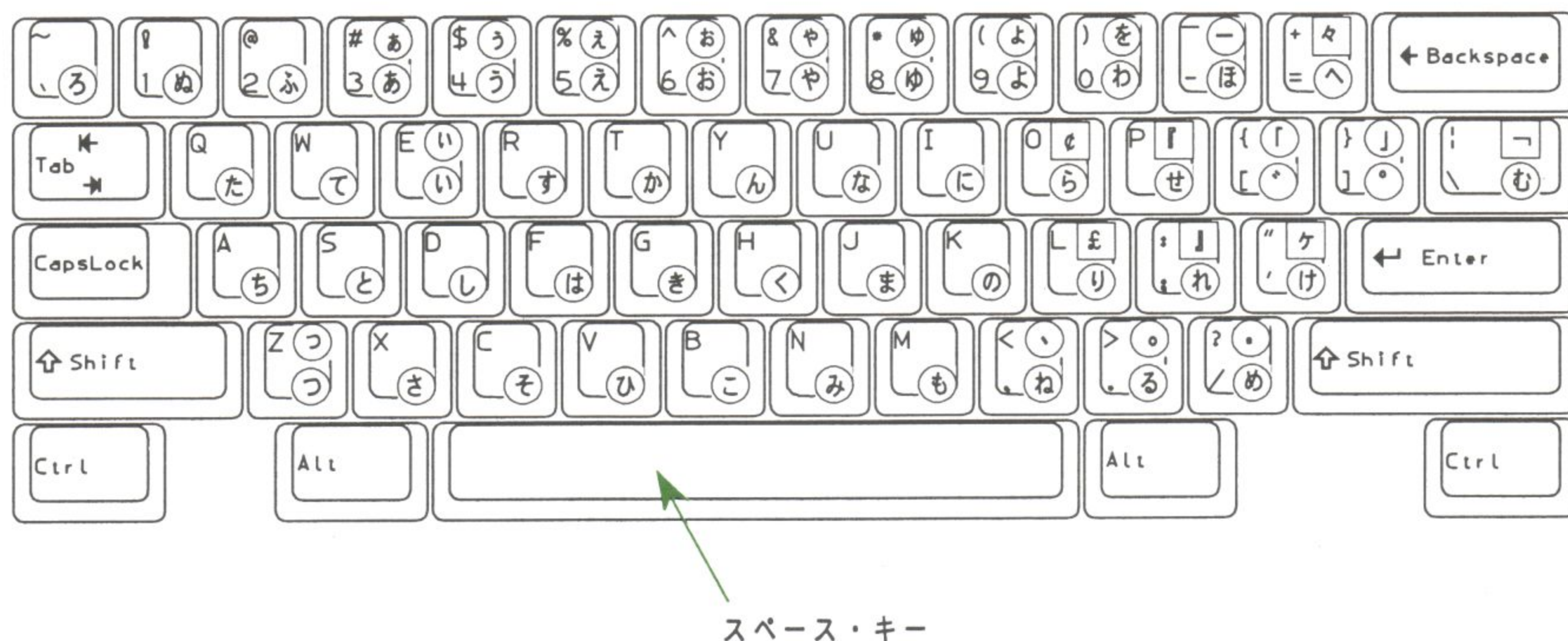
5576-001型	5576-002/003型	5576-A01型 ThinkPad	5535-S型 5523-S型
前面キー	前面キー	Alt	前面キー
スペース	スペース		スペース
ページ印刷	ページ印刷	Print Screen	ページ印刷
ScrLk	ScrLk	Scroll Lock	ScrLk
挿入	挿入	Insert	挿入
↖	Home	Home	Home
前ページ	前ページ	Page Up	前ページ
次ページ	次ページ	Page Down	次ページ
後退	後退	Back Space	後退
削除	削除	Delete	削除
終了	End	End	End

次の表は特殊なキーボード操作の対応表です。

	5576-001型	5576-002/003型	5576-A01型 ThinkPad	5535-S型 5523-S型
全角シフト	半角 を押すたびに半角/全角が切り替わる	半角/全角 を押すたびに半角/全角が切り替わる	半角/全角 を押すたびに半角/全角が切り替わる	半角/全角 を押すたびに半角/全角が切り替わる
漢字モード	漢字	⇧ + カタカナ	Alt + 半角/全角	前面キー + 半角/全角
JIS区点入力	前面キー + 漢字	前面キー + カタカナ	Alt + 英数	前面キー + 英数
Caps	前面キー + 英数 (⇧ + 英数)	⇧ + 英数 (前面キー + 英数)	⇧ + 英数 (Alt + 英数)	⇧ + 英数 (前面キー + 英数)
Break	Ctrl + Pause	Ctrl + Pause	Ctrl + Pause	Ctrl + Pause
かな漢字制御	Ctrl + 漢字 (単語登録)	Ctrl + ⇧ + カタカナ	Alt + Ctrl + 半角/全角	前面キー + Ctrl + 半角/全角
カタカナ・シフト	カタカナ	カタカナ	⇧ + ひらがな	⇧ + ひらがな

米国英語キーボードでの使い方

米国英語キーボードで日本語を入力する場合には、次のような割り当てになります。

注: 「む」「ろ」などの文字が日本語キーボードとは違っているのでご注意ください。

日本語入力のためのキーの機能	米国英語キーボードでの割り当て
全角/半角 切り替え	Ctrl + ' (*1)
漢字モード 切り替え/解除	Alt + '
カタカナシフト	Alt + Caps Lock
ひらがなシフト	Ctrl + Caps Lock
英数シフト	Shift + Caps Lock
ローマ字変換 切り替え/解除	Alt + Ctrl + Caps Lock
連文節変換プログラムで使用するキー	
かな漢字制御	Alt + Ctrl + '
変換	スペース
無変換	Ctrl + スペース
前候補	Shift + スペース
全候補	Shift + Ctrl + スペース
単漢字変換	Ctrl + F3
文節読み	Shift + F3
JIS区点入力	Alt + Shift + Caps Lock
注: (*1) 最上段左端のキー	

米国英語キーボードでの入力例

連文節変換プログラムを利用して、PS/2の米国英語キーボードで簡単な文を入力してみます。ここではローマ字入力を例にしています。

例 1

わかりやすいコンピューター用語

動作	キー入力
漢字モードへの切り替え	Alt + `
わかりやすい	w a k a r i y a s u i
無変換	Ctrl + スペース
カタカナシフト	Alt + Caps Lock
全角への切り替え	Ctrl + `
コンピューター	k o n n p y u _ t a _ (_ は Shift を押しながら - を押す)
確定	Enter
ひらがなシフト	Ctrl + Caps Lock
ようご	y o u g o
変換	スペース
確定	Enter

ご注意: 連文節変換プログラムを使用する場合には、“コンピューター”などの登録済みのカタカナ語は、入力モードをカタカナ・シフトに切り替えなくても、スペース（変換）を押すことで変換できます。上記の例では各入力モードの切り替えを練習するため、あえて入力モードを切り替えています。

例 2

DOS入門とユーザーズ・ガイド

動作	キー入力
英数シフト	Shift + Caps Lock
DOS	d o s (Shift を押しながら)
ひらがなシフト	Ctrl + Caps Lock
にゅうもんと	n y u u m o n t o
変換	スペース
確定	Enter
カタカナシフト	Alt + Caps Lock
全角への切り替え	Ctrl + `
ユーザーズ・ガイド	y u _ z a _ z u ? g a i d o (_ は Shift を押しながら -、 ? は Shift を押しながら / を押す)
確定	Enter
漢字モードの解除	Alt + `

その他のキーボードでの使い方

米国英語キーボード、AXキーボード、東芝J3100キーボードを使った場合のそれぞれのキーの割り当てを、A01キーボードに対比して次の表で示します。

	A01 キーボード (106)	USキーボード (101)	AXキーボード	J3100（ノート型）キーボード
漢字モード	Alt + 半角/全角	Alt + `	漢字	漢字
JIS区点入力	Alt + 英数	Alt + Shift + Caps Lock	Alt + 漢字	Alt + 漢字
CAPS	Shift + 英数	Caps Lock		
かな漢字制御	Alt + Ctrl + 半角/全角	Alt + Ctrl + `	Ctrl + 漢字	Ctrl + 漢字
英数	英数	Shift + Caps Lock	−	−
カタカナ	Shift + ひらがな	Alt + Caps Lock	−	−
ひらがな	ひらがな	Ctrl + Caps Lock	−	−
ローマ字	Alt + ひらがな	Alt + Ctrl + Caps Lock	Ctrl + 英数カナ	Ctrl + 英数カナ
半角 ↔ 全角	半角/全角	Ctrl + `	Shift + 漢字	Shift + 漢字
英数/ひらがな ↔ カタカナ	−	−	英数カナ	英数カナ
英数/カタカナ ↔ ひらがな	−	−	Shift + 英数カナ	Shift + 英数カナ
変換	変換	スペース	変換	スペース
無変換	無変換	Ctrl + スペース	無変換	Ctrl + スペース
単漢 *	Ctrl + 無変換	Ctrl + F3	Ctrl + 無変換	Ctrl + F3
文節読み *	Alt + 無変換	Shift + F3	Alt + 無変換	Shift + F3
前候補 *	Shift + 変換	Shift + スペース	Shift + 変換	Shift + スペース
全候補 *	Alt + 変換	Ctrl + Shift + スペース	Alt + 変換	Ctrl + Shift + スペース

注:

＊：IBMの連文節変換プログラム(IBMMKKV.EXE)特有の機能です。

−：この機能に割り振られるキーはありません。

キーの組合せ一覧表

	そのまま	⇧ +	Alt +	Ctrl +
変換	- 変換 - 次候補	- 前候補 - カタカナ変換 - リトリーブ(注2)	全候補(注1)	
無変換	無変換		文節読み	単漢字変換
英数	英数モード	Caps	番号入力	
Esc	取消	取消		
Enter (改行)	- 確定 - 実行	- 確定 - 実行		
Page Up	全候補・単漢の前候補	全候補・単漢の前候補		
Page Down	全候補・単漢の次候補	全候補・単漢の次候補		
→ ↓	カーソル移動前方（文字単位）	カーソル移動前方（文節単位）		未確定文字列の末尾
← ↑	カーソル移動後方（文字単位）	カーソル移動後方（文節単位）		未確定文字列の先頭
単語登録 (注3)	漢字制御メニュー	漢字制御メニュー		
Home (注4)	データ先頭			
End (注4)	データ末尾			
半角/全角	- 半角モード - 全角モード		漢字モード	+ Alt 漢字制御メニュー

注 1: 全候補は文節候補と単漢候補の両方を含みます。
注 2: 未確定の文字列がない場合に機能します。
注 3: 5576-001キーボードの場合
注 4: 5576-002/003/A01キーボードの場合

付録D. ローマ字かな対応表

タイプするローマ字と表示されるひらがな、またはカタカナの関係は次ページの表のとおりです。

以下のことに注意してください。

- 促音「っ」は、次に続く子音を2つ重ねるか、先頭にxを付けてください。たとえば、

  atta → あった　　xtsu → っ

- 「ん」をタイプするには、nnと重ねてください。ただし、nに続いて子音（nとyを除く）をタイプすれば、最初のnは「ん」に変換されます。
- 旧かな「ゐ、ヰ、ゑ、ヱ」は、ひらがなとカタカナ全角で使用可能です。カタカナ半角では「ｲ、ｴ」と表示されます。
- ローマ字入力は、ひらがな、またはカタカナ・シフトでだけ使えます。英数シフトやCAPSシフトでは、画面の25行目にRが表示されていても、ローマ字変換は行われません。

ローマ字	ひらがな	カタカナ
a　i　u　e　o	あ　い　う　え　お	ア　イ　ウ　エ　オ
ka　ki　ku　ke　ko ca　cu　co qu	か　き　く　け　こ か　く　こ く	カ　キ　ク　ケ　コ カ　ク　コ ク
sa　si　su　se　so shi ci　ce	さ　し　す　せ　そ し し　せ	サ　シ　ス　セ　ソ シ シ　セ
ta　ti　tu　te　to chi　tsu	た　ち　つ　て　と ち　つ	タ　チ　ツ　テ　ト チ　ツ
na　ni　nu　ne　no	な　に　ぬ　ね　の	ナ　ニ　ヌ　ネ　ノ
ha　hi　hu　he　ho fu	は　ひ　ふ　へ　ほ ふ	ハ　ヒ　フ　ヘ　ホ フ
ma　mi　mu　me　mo	ま　み　む　め　も	マ　ミ　ム　メ　モ
ya　yi　yu　ye　yo	や　い　ゆ　いぇ　よ	ヤ　イ　ユ　イェ　ヨ
ra　ri　ru　re　ro la　li　lu　le　lo	ら　り　る　れ　ろ ら　り　る　れ　ろ	ラ　リ　ル　レ　ロ ラ　リ　ル　レ　ロ
wa　wi　wu　we　wo	わ　ゐ　う　ゑ　を	ワ　ヰ　ウ　ヱ　ヲ
nn	ん	ン
ga　gi　gu　ge　go	が　ぎ　ぐ　げ　ご	ガ　ギ　グ　ゲ　ゴ
za　zi　zu　ze　zo ji	ざ　じ　ず　ぜ　ぞ じ	ザ　ジ　ズ　ゼ　ゾ ジ
da　di　du　de　do	だ　ぢ　づ　で　ど	ダ　ヂ　ヅ　デ　ド
ba　bi　bu　be　bo	ば　び　ぶ　べ　ぼ	バ　ビ　ブ　ベ　ボ
pa　pi　pu　pe　po	ぱ　ぴ　ぷ　ぺ　ぽ	パ　ピ　プ　ペ　ポ
kya　kyi　kyu　kye　kyo	きゃ　きぃ　きゅ　きぇ　きょ	キャ　キィ　キュ　キェ　キョ
sha　shu　she　sho sya　syi　syu　sye　syo	しゃ　しゅ　しぇ　しょ しゃ　しぃ　しゅ　しぇ　しょ	シャ　シュ　シェ　ショ シャ　シィ　シュ　シェ　ショ
cha　chu　che　cho tya　tyi　tyu　tye　tyo cya　cyi　cyu　cye　cyo	ちゃ　ちゅ　ちぇ　ちょ ちゃ　ちぃ　ちゅ　ちぇ　ちょ ちゃ　ちぃ　ちゅ　ちぇ　ちょ	チャ　チュ　チェ　チョ チャ　チィ　チュ　チェ　チョ チャ　チィ　チュ　チェ　チョ
thi	てぃ	ティ
nya　nyi　nyu　nye　nyo	にゃ　にぃ　にゅ　にぇ　にょ	ニャ　ニィ　ニュ　ニェ　ニョ
hya　hyi　hyu　hye　hyo	ひゃ　ひぃ　ひゅ　ひぇ　ひょ	ヒャ　ヒィ　ヒュ　ヒェ　ヒョ
mya　myi　myu　mye　myo	みゃ　みぃ　みゅ　みぇ　みょ	ミャ　ミィ　ミュ　ミェ　ミョ
rya　ryi　ryu　rye　ryo lya　lyi　lyu　lye　lyo	りゃ　りぃ　りゅ　りぇ　りょ りゃ　りぃ　りゅ　りぇ　りょ	リャ　リィ　リュ　リェ　リョ リャ　リィ　リュ　リェ　リョ

ローマ字	ひらがな	カタカナ
gya gyi gyu gye gyo	ぎゃ ぎぃ ぎゅ ぎぇ ぎょ	ギャ ギィ ギュ ギェ ギョ
ja ju je jo jya jyi jyu jye jyo zya zyi zyu zye zyo	じゃ じゅ じぇ じょ じゃ じぃ じゅ じぇ じょ じゃ じぃ じゅ じぇ じょ	ジャ ジュ ジェ ジョ ジャ ジィ ジュ ジェ ジョ ジャ ジィ ジュ ジェ ジョ
dya dyi dyu dye dyo	ぢゃ ぢぃ ぢゅ ぢぇ ぢょ	ヂャ ヂィ ヂュ ヂェ ヂョ
dhi	でぃ	ディ
bya byi byu bye byo	びゃ びぃ びゅ びぇ びょ	ビャ ビィ ビュ ビェ ビョ
pya pyi pyu pye pyo	ぴゃ ぴぃ ぴゅ ぴぇ ぴょ	ピャ ピィ ピュ ピェ ピョ
gwa gwi gwu gwe gwo	ぐゎ ぐぃ ぐぅ ぐぇ ぐぉ	グヮ グィ グゥ グェ グォ
qwa qwi qwu qwe qwo kwa kwi kwu kwe kwo	くゎ くぃ くぅ くぇ くぉ くゎ くぃ くぅ くぇ くぉ	クヮ クィ クゥ クェ クォ クヮ クィ クゥ クェ クォ
fa fi fe fo	ふぁ ふぃ ふぇ ふぉ	ファ フィ フェ フォ
va vi vu ve vo		ヴァ ヴィ ヴ ヴェ ヴォ
qa qi qe qo	くぁ くぃ くぇ くぉ	クァ クィ クェ クォ
tsa tsi tse tso	つぁ つぃ つぇ つぉ	ツァ ツィ ツェ ツォ
xa xi xu xe xo	ぁ ぃ ぅ ぇ ぉ	ァ ィ ゥ ェ ォ
xya xyu xyo	ゃ ゅ ょ	ャ ュ ョ
xka xke xca		ヵ ヶ ヵ
xtu xtsu	っ っ	ッ ッ
xwa	ゎ	ヮ

付録E. 表示されるメッセージ

IBMMKKV.EXEにより表示されるメッセージ

正常に導入された時のメッセージ

連文節変換ルーチン(IBMMKKV.EXE Version *)がEMSメモリーに導入されました。

理由: 連文節変換プログラムが正しく導入されると表示されます。

RAM辞書が導入されました。

理由: RAM辞書が正しく導入されると表示されます。

エラー・メッセージ

記憶域が足りないため、IBMMKKV.EXEは導入されませんでした。

原因: デバイス・ドライバーや常駐プログラムが多い場合、連文節変換プログラムをロードする領域が足りなくなることがあります。

処置: 必要でないデバイス・ドライバーを削除するか、常駐プログラムを実行しないようにしてください。

個人別辞書の回復が必要です。

原因: 単語登録中に電源を切るなど強制的に終了した場合、個人別辞書のクローズが正常に行われないため、次回の始動時に個人別辞書が不完全となり、このメッセージが表示されます。

処置: USERDICT.EXEを起動して、5番の「回復」を実行してください。

EMS支援プログラムが導入されていないため、IBMMKKV.EXE(Version*)は導入されませんでした。

原因: EMS支援プログラムが導入されていない時に表示されます。

処置: EMSドライバーをCONFIG.SYSに指定してください。

EMSのバージョンが違うため、IBMMKKV.EXE(Version *)は導入されませんでした。

原因: IBMMKKV.EXEがサポートしていないバージョンのEMSを使用したときに表示されます。

処置: EMS Version4.0以上をお使いください。

EMSメモリーが一杯のため、IBMMKKV.EXE(Version *)は導入されませんでした。

原因: EMSメモリーが一杯の時に表示されます。

処置: EMSメモリーのサイズを増やすか、EMSメモリーにロードされるプログラムを変更してください。

拡張記憶域が足りないため、RAM辞書が導入されませんでした。

原因: ベース辞書と個人別辞書をロードする空エリアがない時に表示されます。

処置: メモリーを増設するか、もしくはRAM辞書の指定(/Rオプション)を外してください。（付録Bを参照してください。）

DOSのバージョンが違うため、IBMMKKV.EXE(Version *)は導入されませんでした。

原因: IBMMKK.EXEがサポートしていないバージョンで起動した時に表示されます。

処置: 同梱されているDOSと一緒にお使いください。

xxは対立するオプションがありますので無効です。

原因: 以下のオプションは同時に指定することができません。指定した場合、先にあるオプションを優先しますので、後のオプションに対してこのメッセージが表示されます。

- RAM辞書(/R)と辞書プロファイル(/S=fn)または個人別辞書の指定(/U=fn)

処置: どちらかのオプションを外してください。(指定したままでも、あとのオプションが無効になるだけで連文節変換プログラムは動作します)。

このプログラムはWindowsのDOSプロンプトからは起動できません。
IBMMKKV.EXE(Version *)は導入されませんでした。

原因: WindowsのDOSプロンプトから連文節変換プログラムが起動されたときに表示されます。

処置: 必ずCONFIG.SYS中の"INSTALL"で導入してください。

付録F. 非漢字文字セットの番号一覧

この付録では、非漢字文字セットの番号についてまとめています。その他の番号については、『漢字コード一覧表』(N:GC18-2040)を参照してください。

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
	64	0101	8140
、	836	0102	8141
。	833	0103	8142
，	619	0104	8143
．	587	0105	8144
・	837	0106	8145
：	634	0107	8146
；	606	0108	8147
？	623	0109	8148
！	602	0110	8149
゛	958	0111	814A
゜	959	0112	814B
´	1104	0113	814C
｀	633	0114	814D
¨	1120	0115	814E
＾	1136	0116	814F
￣	673	0117	8150
＿	621	0118	8151
ヽ	988	0119	8152
ヾ	989	0120	8153
ゝ	1244	0121	8154
ゞ	1245	0122	8155
〃	1115	0123	8156
仝	1116	0124	8157
々	1117	0125	8158
〆	1118	0126	0000
〇	1119	0127	815A
ー	856	0128	815B
―	1098	0129	815C
‐	1114	0130	815D
／	609	0131	815E
＼	992	0132	815F
～	929	0133	8160
∥	1148	0134	8161
｜	591	0135	8162
…	1151	0136	8163
‥	1150	0137	8164
‘	1121	0138	8165
’	1137	0139	8166
“	1122	0140	8167
”	1138	0141	8168
（	589	0142	8169
）	605	0143	816A
〔	1123	0144	816B
〕	1139	0145	816C
［	1092	0146	816D
］	1093	0147	816E
｛	704	0148	816F
｝	720	0149	8170
〈	1124	0150	8171
〉	1140	0151	8172
《	1125	0152	8173
》	1141	0153	8174
「	834	0154	8175
」	835	0155	8176
『	1090	0156	8177
』	1091	0157	8178
【	1126	0158	8179
】	1142	0159	817A
＋	590	0160	817B
－	608	0161	817C
±	1099	0162	817D
×	1146	0163	817E
÷	1147	0164	8180
＝	638	0165	8181
≠	1100	0166	8182
＜	588	0167	8183
＞	622	0168	8184
≦	1127	0169	8185
≧	1143	0170	8186
∞	1101	0171	8187
∴	1128	0172	8188
♂	1129	0173	8189
♀	1145	0174	818A
°	1261	0175	818B
′	1262	0176	818C
″	1263	0177	818D
℃	1102	0178	818E
￥	603	0179	818F
＄	736	0180	8190

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
¢	842	0181	8191
£	586	0182	8192
%	620	0183	8193
#	635	0184	8194
&	592	0185	8195
*	604	0186	8196
@	636	0187	8197
§	1130	0188	8198
☆	1253	0189	8199
★	1254	0190	819A
○	1248	0191	819B
●	1249	0192	819C
◎	1252	0193	819D
◇	1255	0194	819E
◆	1256	0201	819F
□	1257	0202	81A0
■	1258	0203	81A1
△	1250	0204	81A2
▲	1251	0205	81A3
▽	1259	0206	81A4
▼	1260	0207	81A5
※	1131	0208	81A6
〒	1132	0209	81A7
→	1264	0210	81A8
←	1265	0211	81A9
↑	1266	0212	81AA
↓	1267	0213	81AB
〓	1149	0214	81AC
∈	868	0226	81B8
∋	869	0227	81B9
⊆	870	0228	81BA
⊇	871	0229	81BB
⊂	872	0230	81BC
⊃	873	0231	81BD
∪	874	0232	81BE
∩	875	0233	81BF
∧	876	0242	81C8
∨	877	0243	81C9
¬	607	0244	FA54
⇒	878	0245	81CB
⇔	879	0246	81CC
∀	880	0247	81CD
∃	881	0248	81CE
∠	843	0260	81DA
⊥	844	0261	81DB
⌒	845	0262	81DC

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
∂	846	0263	81DD
∇	847	0264	81DE
≡	859	0265	81DF
≒	860	0266	81E0
≪	861	0267	81E1
≫	862	0268	81E2
√	863	0269	81E3
∽	864	0270	81E4
∝	865	0271	81E5
∵	1144	0272	FA5B
∫	866	0273	81E7
∬	867	0274	81E8
Å	882	0282	81F0
‰	883	0283	81F1
♯	884	0284	81F2
♭	885	0285	81F3
♪	886	0286	81F4
†	887	0287	81F5
‡	888	0288	81F6
¶	889	0289	81F7
◯	890	0294	81FC
Α	353	0601	839F
Β	354	0602	83A0
Γ	355	0603	83A1
Δ	356	0604	83A2
Ε	357	0605	83A3
Ζ	358	0606	83A4
Η	359	0607	83A5
Θ	360	0608	83A6
Ι	361	0609	83A7
Κ	362	0610	83A8
Λ	363	0611	83A9
Μ	364	0612	83AA
Ν	365	0613	83AB
Ξ	366	0614	83AC
Ο	367	0615	83AD
Π	368	0616	83AE
Ρ	369	0617	83AF
Σ	370	0618	83B0
Τ	371	0619	83B1
Υ	372	0620	83B2
Φ	373	0621	83B3
Χ	374	0622	83B4
Ψ	375	0623	83B5
Ω	376	0624	83B6
α	321	0633	83BF

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
β	322	0634	83C0
γ	323	0635	83C1
δ	324	0636	83C2
ε	325	0637	83C3
ζ	326	0638	83C4
η	327	0639	83C5
θ	328	0640	83C6
ι	329	0641	83C7
κ	330	0642	83C8
λ	331	0643	83C9
μ	332	0644	83CA
ν	333	0645	83CB
ξ	334	0646	83CC
ο	335	0647	83CD
π	336	0648	83CE
ρ	337	0649	83CF
σ	338	0650	83D0
τ	339	0651	83D1
υ	340	0652	83D2
φ	341	0653	83D3
χ	342	0654	83D4
ψ	343	0655	83D5
ω	344	0656	83D6
А	448	0701	8440
Б	449	0702	8441
В	450	0703	8442
Г	451	0704	8443
Д	452	0705	8444
Е	453	0706	8445
Ё	454	0707	8446
Ж	455	0708	8447
З	456	0709	8448
И	457	0710	8449
Й	458	0711	844A
К	459	0712	844B
Л	460	0713	844C
М	461	0714	844D
Н	462	0715	844E
О	463	0716	844F
П	464	0717	8450
Р	465	0718	8451
С	466	0719	8452
Т	467	0720	8453
У	468	0721	8454
Ф	469	0722	8455
Х	470	0723	8456

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
Ц	471	0724	8457
Ч	472	0725	8458
Ш	473	0726	8459
Щ	474	0727	845A
Ъ	475	0728	845B
Ы	476	0729	845C
Ь	477	0730	845D
Э	478	0731	845E
Ю	479	0732	845F
Я	480	0733	8460
а	384	0749	8470
б	385	0750	8471
в	386	0751	8472
г	387	0752	8473
д	388	0753	8474
е	389	0754	8475
ё	390	0755	8476
ж	391	0756	8477
з	392	0757	8478
и	393	0758	8479
й	394	0759	847A
к	395	0760	847B
л	396	0761	847C
м	397	0762	847D
н	398	0763	847E
о	399	0764	8480
п	400	0765	8481
р	401	0766	8482
с	402	0767	8483
т	403	0768	8484
у	404	0769	8485
ф	405	0770	8486
х	406	0771	8487
ц	407	0772	8488
ч	408	0773	8489
ш	409	0774	848A
щ	410	0775	848B
ъ	411	0776	848C
ы	412	0777	848D
ь	413	0778	848E
э	414	0779	848F
ю	415	0780	8490
я	416	0781	8491
─	892	0801	849F
│	893	0802	84A0
┌	894	0803	84A1

	漢字番号	JIS区点	PC CODE
┐	895	0804	84A2
┘	944	0805	84A3
└	945	0806	84A4
├	946	0807	84A5
┬	947	0808	84A6
┤	948	0809	84A7
┴	949	0810	84A8
┼	950	0811	84A9
━	951	0812	84AA
┃	952	0813	84AB
┏	953	0814	84AC
┓	993	0815	84AD
┛	994	0816	84AE
┗	995	0817	84AF
┣	996	0818	84B0
┳	997	0819	84B1
┫	998	0820	84B2
┻	999	0821	08B3
╋	1000	0822	84B4
┠	1001	0823	84B5
┯	1002	0824	84B6
┨	1003	0825	84B7
┷	1004	0826	84B8
┿	1005	0827	84B9
┝	1006	0828	84BA
┰	1007	0829	84BB
┥	1008	0830	84BC
┸	1009	0831	84BD
╂	1010	0832	84BE
ⅰ	433	11501	FA40
ⅱ	434	11502	FA41
ⅲ	435	11503	FA42
ⅳ	436	11504	FA43
ⅴ	437	11505	FA44
ⅵ	438	11506	FA45
ⅶ	439	11507	FA46
ⅷ	440	11508	FA47
ⅸ	441	11509	FA48
ⅹ	442	11510	FA49
Ⅰ	497	11511	FA4A
Ⅱ	498	11512	FA4B
Ⅲ	499	11513	FA4C
Ⅳ	500	11514	FA4D
Ⅴ	501	11515	FA4E
Ⅵ	502	11516	FA4F
Ⅶ	503	11517	FA50
Ⅷ	504	11518	FA51
Ⅸ	505	11519	FA52
Ⅹ	506	11520	FA53
￤	618	11522	FA55
＇	637	11523	FA56
＂	639	11524	FA57
㈱	1133	11525	FA58
№	1134	11526	FA59
℡	1135	11527	FA5A

用語集

文節　文を区切った時にそれ自体が意味を持つ最小の単位、つまり自立部および自立部+付属部を文節と呼びます。

自立部　単独で1文節になりうるもので、自立語、または自立語に接頭語/接尾語が付いたものをいいます。具体的には、<名詞><動詞><形容詞><形容動詞><副詞>などです。

付属部　単独では文節にはなれない<助詞><助動詞>などの類です。

例：　はるの|うららかな|ひざしの|なかで

自立部:　はる　うららか　ひざし　なか
付属部:　の　な　の　で

複合語　自立語だけから構成される言葉を**複合語**と呼びます。

例：　定期|株主|総会

読み　語句の**読み**のことです。「連文節」の読みは「れんぶんせつ」です。読みは全角ひらがな、または全角英数文字です。

リトリーブ（読みの呼び出し）

最後に変換された文字列の**読み**をもう1度呼び出して使うことをいいます。同一語句が繰り返し使われる場合に便利な機能です。(⇧ + 変換)

候補　読みに対応する漢字を**候補**といいます。複数の候補の中から目的の漢字を見つけるためには次のキーを使います。

キー	説明
変換	このキーを押すごとに次の候補が表示されます。**(次候補)**
⇧ + 変換	1つ前に表示された候補が再び表示されます。**(前候補)**
Alt + 変換	すべての候補の一覧表が表示されます。ここから番号で選択します。**(全候補)**

確定　候補の中の1つに決定し、もはや再変換ができない状態にすることを「確定する」といいます。確定前は読みに戻したり他の候補に変換することができますが、いったん確定すると読みはなくなり別の候補に変更することはできません。スポット変換の場合は確定前の文字列は**下線**または**青色文字**によって表されます。また、**確定の方法**は**変換位置**（スポット変換・定位置変換）によって異なります。

- **スポット変換**　Enter（改行）、↑、↓ キーにより確定
- **定位置変換**　文字（変換後に次の文字を入力したとき）または Enter（改行）により確定

かな漢字制御メニュー

次の項目を設定するメニューで、**漢字モード**において Alt ＋ Ctrl ＋ 半角/全角 キーを押すといつでも表示されます。（通常モードからでも表示されます。）

設定

- 変換位置
- 定位置確定
- 変換方法
- 番号入力
- 学習保存

単語登録

下線、青色文字

下線（単色表示の場合）または青色文字（カラー表示の場合）はスポット変換でのみ表示され、確定前の文字列であることを示しています。

特記事項

本書で言及されるIBM*製品、プログラム、またはサービスのなかには、日本で発表されていないものも含まれます。このことは、弊社がこれらのIBM製品、プログラム、またはサービスを、日本で発表する意図があることを示すものではありません。

本書で、IBM製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、当該製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラムまたはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

本書で解説される主題についてIBMがその特許権（特許出願を含む）を所有していることがあります。本書は、これらの特許権について、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権に関する照会は、下記の宛先に、書面にて行ってください。

〒106
東京都港区六本木３丁目２－３１
IBMワールド　トレード　アジア　コーポレーション
コマーシャル　リレーションズ

本書中、星印(*)の付いている以下の用語はIBM Corp.（米国）社の商標です。

PS/2	Personal System/2
ThinkPad	

本書中、二重星印（**)のついている以下の用語は他社の商標です。

AX	AX協議会
Windows	Microsoft Corporation

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

〔カ行〕

〔サ行〕

〔タ行〕

〔ナ行〕

〔ハ行〕

〔マ行〕

〔ヤ行〕

〔ラ行〕

C

I

J

M

R

T

U

W

数字

特殊文字

連文節変換プログラム
ユーザーズ・ガイド

PC DOS J6.3/V

Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

SC88-3077-00

IBM

PC DOS J6.3/V

連文節変換プログラム ユーザーズ・ガイド